

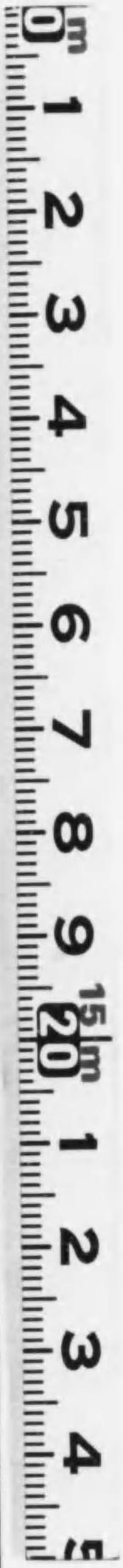
# 東京地方

特240  
211

イラスト案内巻 第二十輯



観光案内・ツーリスト・ビューロー  
（日本旅行協会）



# 始



島の中腹  
眺望絶佳  
四圍閑静



鐵道省 東京  
都立市 金  
都立市 電  
都立市 樓  
都立市 局  
都立市 定

江の島鎌倉の御見學には  
當班係員は無料で  
御案内申し上げます  
記念撮影には  
是非弊班を御利用下さい。

江之島電鐵會社  
專屬奉仕部寫眞班



昭和十五年九月三十日現在  
(横濱六-一三ノ二)

大浴室新築落成なる!!

大廣間 二間  
客室 數十間

御宿泊料  
(學生) 一、五〇—二、〇〇  
(普通) 三、〇〇—六、〇〇  
御食事料 四〇—六〇

江之島電鐵會社  
指定旅館  
洗心亭



例言

一、本書は小やかな冊子ではあるが、旅する者の利便のため  
に、只管忠實なる良き案内者たらんとする目的の下に生れた  
もので、力めて美辭麗句の羅列、文辭の修飾を避け精確を期  
したのである。

二、逐次地方々々を一編として刊行の計畫であるが史蹟・名勝・  
觀光地・傳説・行事・名産・日程・費用概算等の記事は簡明  
を主として、一冊の携行はよく其地方の概念を把握し得るこ  
とを信ずる。

三、唯限られた紙数の小冊子に盛り込まれた記事は時に簡に失する感  
もあり或は誤謬の點なきを保し難い。是等の諸點は大方の吝  
かならざる御垂教を俟つて他日完璧を期したい。

四、本輯は京濱地方編となし、東京・横濱及其の附近の他、東京  
府、埼玉縣下の一部をも集録した。

五、記事欄中旅館名の上に◎印を附してあるのは日本旅行協會  
の指定旅館で、カッパ内の宿泊料は當協會各地案内所に  
て發賣して居るクーポン(泊二食付、茶代不要)の料金を示せる  
ものである。

六、本文記事中の旅館・自動車其他の料金は十五年六月現在であ  
る。

昭和十五年九月

目次

- 東京市(概説).....(一)
- 宮城及離宮(宮城、赤坂離宮、新宿御苑).....(七)
- 神社・佛閣・名勝.....(八)
- 川崎大師、多摩聖蹟記念館、横濱市(三ツ、伊勢佐  
木町、大倉精神文化研究所、扇島海水浴場、花井  
園、金澤文庫、掃部山公園、外人墓地、明神寺、  
皇太神宮、三溪園、稱名寺、十二天壽、杉田梅軒、  
總持寺、御島橋園及鑪泉、生慶の碑、根岸神社、  
野毛山公園、八雲殿、本覺寺、山下公園、横濱公  
園、横濱市兒童園.....(三)
- 東京附近.....(三六)
- 多摩殿、高尾山藥王院、井ノ部恩賜公園、小金井  
の櫻、御嶽山、御嶽神社、奥多摩、氷川神社、天  
覽山、子ノ權現、高麗神社、正丸峠、黒山鑪泉、  
金剛神社、八雲鑪泉、武蔵嵐山、吉見百穴、正法  
寺、物見山.....(三六)
- 熊谷・秩父方面.....(三九)
- 熊谷市、歡喜院、長壽、秩父神社、三峯神社  
地圖及寫眞.....(四〇)

# 東京市

東京府廳の所在地たると共に、實に我が帝國の首府である。關東地方の南部、武蔵野臺地の東端が、東京灣の北岸に臨む所に位し、その位置、我國の略中央にあり、百貨の集散並に中央集權の爲政上極めて便利な位置を占めて居るばかりではなく、背後には天産豐饒な關東大平野を擁し、交通の至便と相俟つて帝國々際關係の中樞をなしてゐる。東京と云へば江戸、江戸と云へば武蔵野の古へが回顧される。いま世界第二の大都會として誇る大東京も、千百年前の昔はアヅマと呼ばれた草深い荒野に過ぎなかつたのである。江戸の名は隅田川河口、即ち江の門戸に當る處から、此處に住んでゐた秩父四郎重繼がその庄を江戸といひ自ら江戸氏と稱したのに始まるのである。重繼の子太郎重長は治承四年(紀元一一三四年)源頼朝を石橋山に攻め、のち頼朝に降り武蔵國を治めたが室町時代にはその勢衰へ、徴々たる寒村となつた。以來久しく顧るものも無かつたこの荒野、遂に關東管領扇ヶ谷定正の家臣太田資持入道道灌によつて此の地が關東・奥羽の咽喉を扼し且つ水陸交通の便を兼ねた形勝の地なることを發見され、長祿元年(紀元一三二九年)四月武蔵野の一角に彼の居城を構へたのが、帝都、大東京の發祥である。即ち今を去ること四百八十一年前のこと、その頃は今の日比谷附近は海濱に臨んで松原が横がり、湯

鳥臺には漁家が点在してゐたと云ふことである。道灌の治政三十年、次第に繁榮して關東樞要の市街となつたが、文明十八年道灌歿し、上杉氏、北條氏に敗れるに及んでその繁榮は小田原に奪はれるに至つた。かくてまた百餘年の間、衰退の運命をかこつて過ぎなかつたが、天正十八年(紀元一六一〇年)八月一日徳川家康が關東八州の領主となるに及び、江戸をその居城と定め、ついで慶長八年(紀元一六三三年)征夷大將軍となつて幕府をこの地に開き、一方萬難を排して附近の沼澤原野を開拓したので、江戸は一躍日本六十餘州の政治的中心地となり、一路繁榮へと躍進したのである。徳川十五代、二百六十八年、八百八町から天保年間には千六百七十八町に擴大され、人口二百萬を算へて股賑を極めた。維新の大業に當り、輝かしい王政復古は明治の曙光を齎し、江戸を東京と改稱、江戸城は長くも皇城と定められた。これ實に明治元年で、新日本の象徴としての東京がその萬古不易の生命を創生した時である。かくて古き江戸の衣を脱いだ帝都は國運の進展に伴ひ、名實ともに文化の中心として躍進また躍進、明治十一年十一月區制を施行(舊市部に屬する町區外十區の前身をなすもの)、同二十二年には市制が實施され(法制上公法人と認められた特別市)、ついで四十四年四月現行市制の公布を見、更に大正大震災を契機として上水・下水の設備、道路の改善、公園の設定、工業地・住宅地等の地域區分等整然たる區劃整理を得て歐米都市に比して少しも遜色なき新都市となつた。殊に大震災後の著しい現象は接續町村の急激な膨脹であつたが、昭和七年十月、これを合併して大東京市制實現し、従来の十五區は新市域の

新設區を加へて三十五區を算するに至り名實共に世界有数の大都市となつたのである。即ち面積に於ては北米ロスマンゼルス及び上海・伯林・紐育に亞ぎて世界第五位、人口は紐育について世界第二位にあり、南米のチリ、歐洲のスイス・デンマーク・ノルウェーの如き一國の獨立國をも遙かに凌駕してゐるのである。

市は地形上、臺地部と低地部とに分たれ、西部、武蔵野臺地の東端部に當る低き臺地部を山手と稱し、東部沿岸の低地部を下町と通稱してゐる。所謂山手とは江戸時代からの市街地である舊市域の西北部と之に接續する新市域で官衙や勤め人の住宅が多い。また下町は荒川沿ひの低地に發達した部分で、土地極めて低く、主に商業地となつてゐる。向本市三十五區の中には農耕地の比較的多い所もあるが、各種の設備益々整ひ、文字通り日進月歩の有様益々繁榮を加へてゐる。市中最も賑ふのは銀座通り・日本橋通り・淺草六區附近・新宿・澁谷・神田・人形町通り等で、總町・日本橋兩區に亘るビルディング街は偉觀を呈し、丸の内事務街に通勤するもの毎日約五萬人と稱されてゐる。

## 交通機關

**市營電車** 主として舊市内に四通八達し、早朝から夜半に至る迄頻繁に運轉されてゐる。貨金片道七錢均一(市營バスとの間に三錢又は八錢で乗換の便がある。尚近接の私鐵と連帶して十錢均一の切符も發賣されてゐる)。

**乗合自動車** 舊市域には主として、市營バス及市營バス(地下鐵經營)が主要路に運轉されて居り(五錢乃至十五錢)、新市域も各線路又は私鐵路を起點として各方面に定期バスが運行されてゐる。

**タクシー** 市内主要地及各線路前等に駐車場がある。主としてメーター制を採用してゐるから不當な料金を取られる様なことはない。

**地下鐵道** 澁谷(省線接續)―新橋(省線接續)―銀座―神田(省線接續)―上野(省線接續)―淺草雷門(東武電車接續)間に通じ、省線電車其他との間に連絡切符も發賣されてゐる。

**省線電車其他** 東京市内を縱横に通貫してゐる東海道・東北線(横濱―東京―上野―大宮間)、中央線・總武線(東京―八王子―淺川間)及び御茶水―兩國―千葉間)及び常磐線(上野―松戸間)の外、山手線を通じて東京―品川―澁谷―新宿―池袋―田端―上野―東京間に循環電車が頻繁に運轉されてゐる。

向京線・東横・小田急・西武・帝都・武蔵野・京王・東武・京成等の私設鐵道、所謂郊外電車も山手線その他から放射狀に分歧して居り、交通至便である。

## 主なる旅館・ホテル

### (A) 日本旅館

- 物町區** 終極支店(内幸町一ノ一、新橋二〇〇米、電銀座五一五番、番、九圓半) 植木屋(半町九ノ八、有樂町一ノ六、電九段三六三番、六圓、サービス料二割割)、松葉館(九段二ノ一、市ヶ谷半軒餘、電九段八四番、五圓) 旭館(内幸町一ノ五、新橋半軒餘、電銀座三、一七五番、四圓半) **京橋區** 有明館大野屋(築地三ノ一五、新橋一軒、電京橋一〇七番、八圓) 六方館(築地一ノ一六、東京一軒、電京橋一四一〇番、八圓) 城東館(大野屋)(京橋一ノ八、東京一軒、電京橋一三〇八番、六圓) 春日館(京橋一ノ八、東京二〇〇米、電京橋一三〇八番、六圓) 扶桑館(木挽町四ノ三、有樂町四〇〇米、電京橋四七九番、五圓半) せき旅館(木挽町六ノ二、新橋三〇〇米、電銀座五三三番、四圓) **神田區** 德名館本店(勝河原三ノ四、御茶ノ水二〇〇米、電神田一三五番、八圓) 昌平館(錦町一ノ一、東京四〇〇米、電神田一四四番、一四六番、五圓) 今城館(錦町一ノ一、東京四〇〇米、電神田一四四番、一四六番、五圓) 萬代家(横路町二ノ八、電



大東京交通概念圖

凡例

—	—	—	—	—	—
省	會社	府縣	市界	舊市內區界	新市內區界
線	線	界	界	界	界

東京灣

世橋驛二〇〇米、電神田五二五番、五〇番、各名分店(小川町三ノ二〇、御茶水ノ驛二〇〇米、電神田一三三番、六〇番) 清光館(美土代町三ノ四、神田驛四〇〇米、電神田三二九番、四〇番) 日芳館(神保町一ノ六、九、東京驛一軒、電神田三六二番、四〇番) 森田館(三崎町一ノ八、水道橋驛一〇〇米、電神田一三六番、四〇番) 日昇館(新橋驛二ノ一、御茶ノ水驛二〇〇米、電神田二七八〇番、四〇番) 都賀家(淡路町二ノ七、萬世橋驛四〇〇米、電神田二〇三番、四〇番) 初谷旅館(淡路町二ノ一〇、萬世橋驛二〇〇米、電神田三三〇番、三〇番) 廣島屋(須田町二ノ一九、萬世橋驛一〇〇米、電神田四四〇番、三〇番) 本郷區 花水信支店(湯島天神町一ノ六八、御徒町驛六〇〇米、電下谷三三五番、五〇番) 日本橋區 八洲ホテル(通一ノ六、東京驛半軒、電日本橋一三六五番、五〇番、サビエス科一割制) 相模屋(馬喰町一ノ一、東京驛一軒、電花三一一五番、五〇番) 近與旅館(通二ノ一、東京驛六〇〇米、電日本橋四九六二番、五〇番) 千代田旅館(江戸橋二ノ一、東京驛六〇〇米、電日本橋一四七七番、七〇番) 大盛館大野屋(飯倉町一ノ四、東京驛二軒、電茅場町三二〇七番、五〇番) 名倉屋本店(室町三ノ一五、東京驛六〇〇米、電日本橋二二七番、七〇番) 宮城館(兩國四八、淺草橋驛四〇〇米、電浪花一八三番、四〇番) 龍名館(吳服橋二ノ一、東京驛三〇〇米、電日本橋一七七番、五〇番) 下谷區 針久支店(東京驛三ノ三、上野驛三〇〇米、電下谷九七八番、五〇番) 各倉屋支店(車坂町八、上野驛前、電下谷一八一八番、四〇番) 山下館(車坂町二ノ一、上野驛前、電下谷二二七八、五〇五二番、四〇番) 飯島旅館(上野町二ノ一五、御徒町驛前、電下谷九一五番、三〇番) 都乃田館(下谷町二ノ七、上野驛前、電下谷七八〇番、三〇番) 宇仁館支店(車坂町六六、上野驛前、電下谷七四〇六番、三〇番) 井筒屋(仲御徒町四ノ四、上野驛前、電下谷五八番、三〇番) 群玉舎上野館(車坂町九、上野驛前、電下谷一四〇八番、三〇番) 福仙(御徒町三ノ二〇、上野驛前、電下谷八六一番、三〇番) 紀伊國屋(新橋三ノ一、新橋驛一〇〇米、電銀座三〇一六番、七〇番) 伊勢屋(南佐久間町一ノ四六、新橋驛四〇〇米、電芝一六一番、五〇番) 結屋旅館(高輪南町二七、品川驛五〇米、電高輪四九七番、三〇番) 結屋旅館(高輪南町二七、品川驛五〇米、電高輪四九七番、三〇番) 赤坂區 對翠館(田町二ノ一六、新橋二軒、電赤坂一五八番、五〇番) 以上は各協會指定のターボン旅館(料金は一泊二食付)のみを挙げたが、市内には右のほか数千軒の旅館が各所に散在してゐる。

宮城 離宮

畏くも 天皇陛下の住し給ふ御所で、皇居・内裡・皇宮・禁裡・禁中・龍關・大内・九重・雲上等とも申上げる。江戸城の舊地に當り東京市のほと中央、霞ヶ關・日比谷の北に位し、東は御苑、西は吹上、北は本丸と申上げ皆墨濠を以て相限られてゐる。

江戸城は長祿元年(紀元三二七年)四月太田道灌資長の創築にかゝる所である。その後天正十八年(紀元三三〇年)徳川家康入城してその居城となし、その後漸次改修せられて規模頗る宏大な城郭となり二百五十餘年間の長きに亘り徳川氏代々の居城として政治文化の中心となつたのである。現在の 皇居の地は舊江戸城の西丸跡で、御正門は舊西丸大手門に相當する。宮城御正門から三宅坂方面の城濠に臨む一帶の城壁と城門・櫓などの建築物は壯大であつた舊時のまゝ、江戸城の面影を傳へ、昔ながらの松の緑と石垣の白とは崇高と優美の極致に拜される。二重橋は宮城より御正門に通ずる所に架けられた御橋で舊西丸下乗橋(月見橋とも稱した)である。今は鐵アーチから成つてゐるが(明治二十一年御改築)もとの木橋は深くて橋脚を造れぬ爲、橋の上に橋を重ねた珍しい構造であつたから「二重」の名が起つたと云ふことである。宮城御正門外の御橋は舊名を西丸大手橋と稱し、もとは同じく木橋であつたが今は石造アーチの所謂メカ橋となつて居る。何人も此の御橋近く迄歩を進め、崇峻極りなき 皇居を拜することが出来る。二重橋前の外苑は舊馬場先門内にあり、諸侯の邸宅のあつた所である。有名な南朝の忠臣大楠公馬場の銅像は此の外苑馬場の東南隅にあり、明治三十年佐友男爵の献上したものである。【櫻田御門】もと江戸六口の一小田原門又は品川口門と稱し扉なき木戸門であつたが、居城西丸下の曲輪が出来、改築され内櫻田門(桔梗門)に對し外櫻田門と稱したところである。完全に樹形門の遺構を存する城門

(一) 主なるホテル 帝國ホテル(麹町區内山下町一ノ一、新橋又は有樂町驛半軒、電銀座三一五一、三二六四番、室代六圓以上) 東京鐵道ホテル(丸ノ内二ノ一、東京驛橋上、電丸ノ内二二二二、二二九番、室代三圓半以上) 丸ノ内ホテル(丸ノ内一ノ一、東京驛一〇〇米、電丸ノ内二二六、二二九番、室代三圓半以上) 山王ホテル(麹町區水田町二ノ七三、新橋驛三軒、電銀座五七〇一、一七番、室代三圓以上) 中央ホテル(麹町區内幸町一ノ六、新橋驛半軒、電銀座一三三三、一三四三番、室代二圓半以上) 東洋ホテル(日本橋區茅場町二ノ八、東京驛二軒、電茅場町二二七、二二二〇番、二圓半以上) 八洲ホテル(日本橋區通二丁目六、東京驛一軒、電日本橋一三六五、一三九番、室代四圓以上) 第一ホテル(芝區新橋一ノ三二、新橋驛三〇〇米、電銀座七六六一、七六七九番、室代三圓以上) ホテル芳千間(神田區錦町三ノ一九、東京驛一軒、電神田二七九六、三六三六番、室代二圓以上、和洋兩式) 三全ホテル(麻布區市兵衛町二ノ三、新橋驛三軒、電赤坂四二二二、四四六八番、二圓以上) 新宿ホテル(淡路區角管一ノ一、新宿驛一〇〇米、電四谷七〇四、一〇四七、五九一八番、室代二圓以上) 御園ホテル(下谷區御徒町三ノ八、御徒町驛、電下谷一三〇四、一三〇五、四〇一五番、室代三圓半以上、和洋兩式)。

【主なる土産物】 食料品 淺草海苔・佃煮類・福神漬。菓子類 最中・羊羹・饅頭・甘納豆・たまご・梅干・柿・瓦せんべい・饅せんべい・餅・菓子・櫻餅・おこし・あられ・和菓子・洋菓子類・パン類。其他 下駄、版書木版書、裝身具、玩具類、小動物類、文房具類等。

【名物】 すし、天ぷら、そば、うなぎ、鳥、牛肉、おでん、かに料理、川魚料理、鰻とろ等。 【百貨店】 三越(日本橋區室町に本店、銀座四丁目及び新宿角管に支店あり) 松屋(銀座三丁目)に本店、淺草雷門驛橋上に支店あり、高島屋(日本橋通二丁目)、白木屋(日本橋通一丁目)に本店、大森・五反田・大塚等に支店あり、伊勢丹(新宿三丁目)、東横百貨店(澁谷驛隣り)、松坂屋(上野、銀座)。尚東京驛前の丸ビル二階に東京商品館及地方物産館がある。

赤坂離宮

この地はもと和歌山藩邸であつた處で、明治四年藩主の猷地にかゝり、五年以降 英照皇太后宮の御所となし給うた處である。明治六年五月、皇居炎上に依り、兩陛下こゝに移御、爾來假皇居とせられ、廿一年新皇居御竣工に付き、翌年移御の後、東宮御所となり、ルイ十四世石造の宮殿は明治四十三年御竣工になつたものである。大正三年、高輪御殿を東宮御所とせられしにより、再び赤坂離宮の舊稱に復した。大正十二年關東大震災に依り、東宮御所燒失に付き、東宮(今上天皇陛下)日光よりこの離宮に還啓、庭上に於て攝政宮として、山本内閣の親任式を執り行はせられ給うた事は、内閣更迭史上特筆すべき一事とされてゐる。爾後東宮御所となり、昭和元年御踐祚後も假御座所とせられ、同三年兩陛下皇居御移徙後、三度赤坂離宮と復稱せられることとなつたのである。その後英國皇太子御來遊の節(大正十一年)及滿洲國皇帝陛下御來朝の際その御宿舎に當てられた事がある。最近新東宮假御所がこの内に御造營あらせられたと拜承する。

新宿御苑 四谷區新宿 市電新宿一丁目下車

御苑地の大部分は、もと高遠藩主内藤駿河守の邸地であった所で、明治五年 皇室に献上されて内務省の所管となつたが、明治十二年五月十七日宮内省に属し、新宿植物御苑と稱し、同三十九年現名に改稱されたものである。苑内泉池樹木多く、明快暢達な洋式風景園の外、舊來の佛を忍ばしめる日本式林泉の部分もあり、又、觀櫻・觀菊の兩季に盛大な御宴が開かれる以外、平常帝室の國際的交歡の場所に供せられてゐる。また、内外の蔬菜果樹が栽培せられ、供御の料に供せられると拜承する。御苑内の一部に 大正天皇御葬場殿址があり、また大藏省勸業寮内藤新宿試験場も設けられてゐる。

本苑は、明治五年四谷内藤邸地納官以來、幾多の變遷を見たが、本苑が明治時代の我國殖産特に園藝界に發した功績及明治遺園界に發した役割は甚大であると云ふ。即ち廣潤な芝生・艶麗な花壇・新來の外國樹種の移植等、凡て劃期的なものであつた。その原設計は福羽逸人・市川之雄兩技師が擔當中、同國著名の造園家アンリ・マルティネー氏に求め、兩技師歸朝後、明治三十五年から五十年にして竣工したものである。修學旅行團等にて、本苑拜觀希望者は豫め郵遞を通じて文部省宛申込み、許可を受ける必要がある。時間は午前中。但し日・祭祝日を所く。

神社・佛閣・名勝 (五十音順に依る)

神社には、明治天皇の英靈を鎮め奉る明治神宮を始め、護國の英靈を祀る靖國神社、山王祭で名高い日枝神社、夏祭で有名な神田明神、御輿祭で知られた宮岡八幡、龜町の平河天神、牛込の築土八幡、赤坂の水川神社、本郷の湯島天神、芝の愛宕神社及び琴平神社、日本橋入形町の水天宮等何れも名勝として知られ、また赤坂御乃木邸に建てられた乃木神社、最近鎮座祭を執行された東郷神社も東京の名勝である。佛閣では上野の寛永寺、浅草の浅草寺、芝の増上寺及青松寺、小石川の傳通院、音羽の護國寺・麻布の善福寺・芝高輪の泉岳寺公園には、上野・日比谷・芝の三公園を始め淺草・酒町・隅田・江戸川・飛鳥山・龜戸・洗足池等があり、各々種を異にしてゐる。市外吉祥寺の井ノ頭恩賜公園も東京人士のために設けられた天然の公園である。また板橋區の豊島園、玉川電車沿線の讀賣園、京王電車沿線の多摩川原京王園、日比谷の多摩川園等は娛樂的文化施設の有料公園で、何れも入場者が頗る多い。劇場には歌舞伎座を始め、東京劇場・明治座・有樂座・東京寶塚劇場・新橋演舞場・國際劇場等があり、映畫館では日本劇場・日比谷映畫劇場・新宿第一劇場・東横映畫劇場等が著名である。東京はまた櫻の都で、三月中旬上野公園の彼岸櫻先づ並び、靖國神社境内、小石川植物園内・清水谷公園・練馬橋附近・三宅坂・英國大使館前・葛城附近・芝公園・江戸川橋・隅田川堤等之に並び、殊に飛鳥山や郊外の小金井等は櫻櫻客で非常な賑を早する。

都として百餘の施設が充實し、近代文化の豪華な壯麗を誇る東京は、また江戸・明治・大正・昭和の豐富な史蹟を加へて探るべき名所史蹟が餘りにも多い。殊に大東京となつてからは世界第二位の人口と廣大な地域を擁するので、東京見物に來て眞實の東京を知るには相當の長い日数を要するのである。只單に代表的な名所史蹟を探るだけでも一日や二日ではむづかしい相談である。しかしし成る可く短い日数で且つ經濟的にしかも一つでも多く見て廻らうとするのは、最も望むべきであるが、それは既定コースに依る遊覽パスの如きものになつたから、電車・バス等を利用して次頁所載のコースに依られるのが便利であらう。

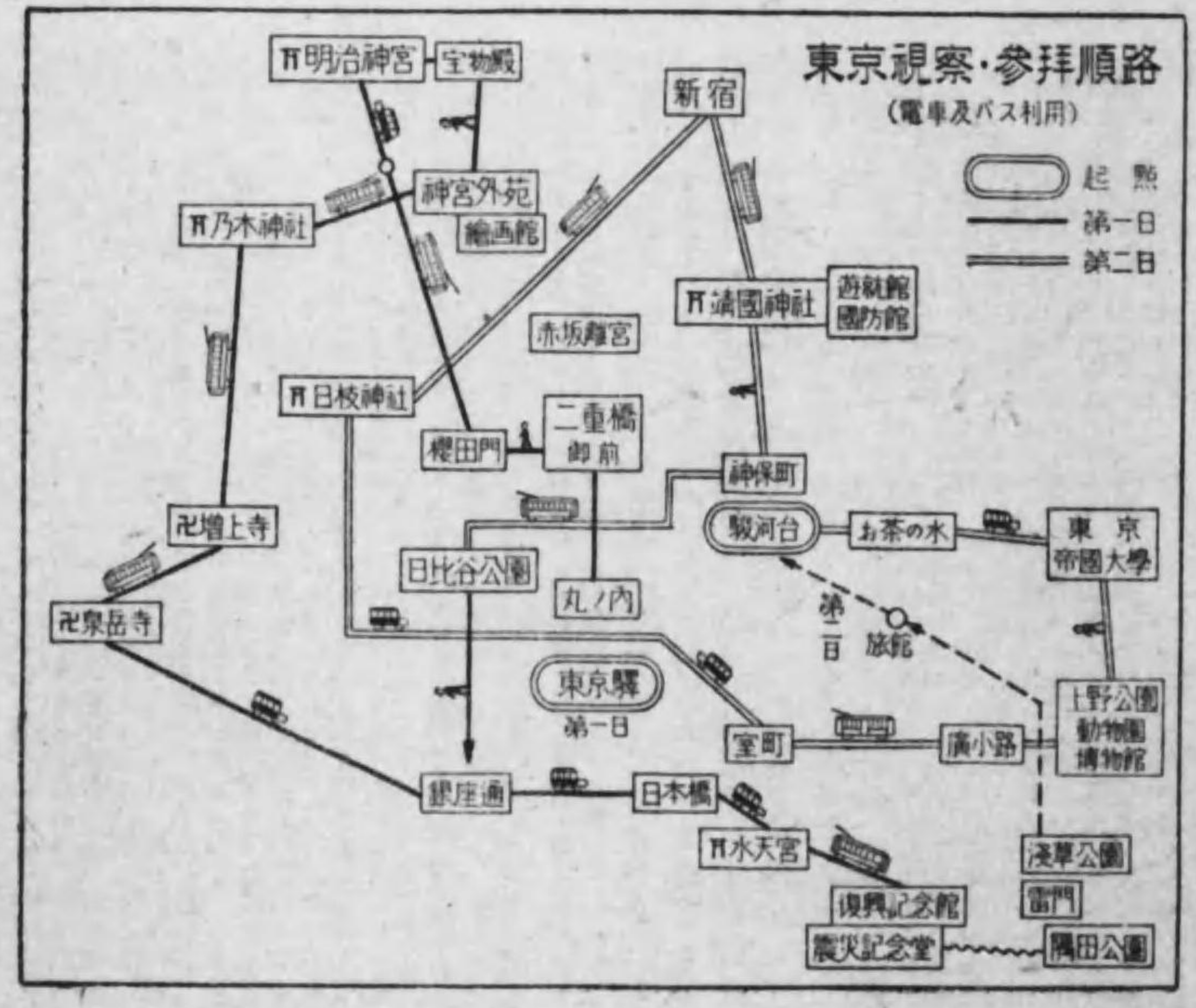
◎市電名所遊覽券 向電車利用客の爲め、東京市電氣局では左記の便利な「名所遊覽券」を發賣してゐる。  
▲一圓券 有効五日間、巡遊箇所二十二ヶ所(宮城外苑・櫻田門・日比谷公園・愛宕山・芝公園・増上寺・泉岳寺・乃木神社・明治神宮・明治神宮外苑・日枝神社・靖國神社・上野廣小路・寛永寺・淺草寺・龜戸神社・震災記念堂・油壺庭園・水天宮・深川不動・銀座・日本橋)  
▲五十錢券 有効二日間、巡遊箇所八ヶ所(右の内適宜選擇)

官幣大社 日枝神社 龜町區水田町二丁目に鎮座。市電山王下車。

祭神、大山咋神。(相殿神) 國常立神・足仲彦尊即ち仲哀天皇・伊弉册尊古來日吉山王權現、江戸山王權現、又は山王様とも稱し、文明年中太田道灌が江戸城内に勸請したのに創り、徳川家康が江戸入城の後、紅葉山に移し、更に半藏門外に遷して産土神と定めて以來、代々徳川將軍の崇敬篤く、府内第一の名社と崇められた名祠である。社殿は本殿・拜殿・幣殿・中門・樓門等を備へた権現造りで、江戸初期に於ける神社建築の代表的なものと云はれ現に國寶に指定されてゐる。大正十二年の震災後大修理を加へ、朱塗・蠟色塗の柱・傍金具などが美しく輝いてゐる。毎年六月十五日の例祭は古來山王祭と稱して、神田明神の祭禮と共に名高い(昔は御用祭又は天下祭とも稱し將軍家上覽の豪華なものであつた)。

官幣大社 明治神宮 澁谷區代々木外輪町に鎮座。

参道は南・北・西の三方にある。南参道は青山・原宿方面から入る参道で、有線電車(山手線)原宿下車、驛に接してゐる神宮橋を渡つて半軒餘で拜殿前に達する。又は市電・地下鐵の神宮前下車、

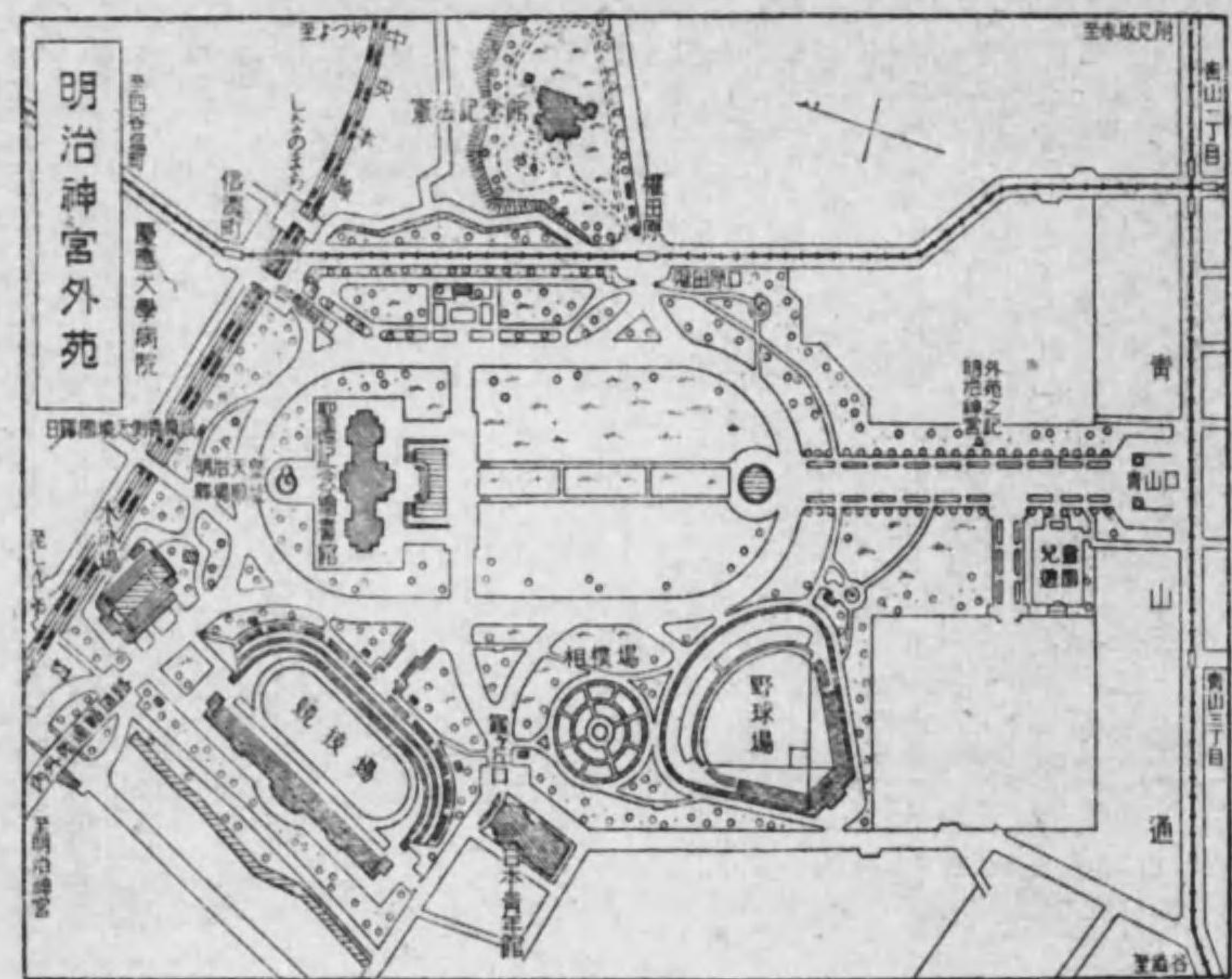


夫から前記神宮橋迄約一軒、バス五鐘。北邊道は外苑からの連絡道路に連り、小田原急行電車登宮橋又は京王電車神宮裏に下車する。西邊道は小田原急行電車登宮橋又は京王電車神宮裏に下車する。

**祭神、明治天皇 昭憲皇太后。**  
御社殿は、拜殿より内部を内院と稱し、外部を外院と稱する。内院は廻廊によつて繞らされ、その中に御本殿及中門がある。その様式は古雅なる流造にして、莊嚴質朴を旨とせられたもので、誠に神々しく拜される。一般参拜者は拜殿御階上欄縁の所まで進み拜禮することが出来る。大祭二月十七日(新年祭)、十一月三日(例祭)、十一月三日(新嘗祭)。

明治天皇は中ずも異き極みながら實に不世出の大英主にましました。その御聖徳は悠無く、その御治績は限無く、明治維新の大業を成就して國威を宣揚し給ひ、明治の大御代は赫々たる我國史上に更に一段の光輝を放ち、その高き大御聖徳、深き御仁慈は日本國民の齊しく骨に沁み肝に銘じて忘れんとし得ることの出来ぬところである。然るに明治四十五年七月、天皇御不豫の報一度傳はるや、上下驚愕、ひたすら御回復を希ひ奉り赤誠の限り日夜熱誠を捧げ奉つたが、悲しくも月の三十日遂に御去り給うた。爾來、月去り年經る毎に國民の御聖徳追慕の念、や増すばかりにて、その熱情の終にはとほしところ、天皇の御聖徳を永久に奉り奉る明治神宮奉建の儀は國民の輿論となり、第三十五議會は滿場一致神宮奉建の豫算案を可決し、大正四年四月勅令を以て明治神宮造營局官制が公布せられた。是より先、明治神宮奉建につき審議中、大正三年四月十一日、國民はまた不幸にして、昭憲皇太后の崩御に遭ひ、皇太后は坤德高尚くましまして日夜萬民を慈しませ、明治聖代を内より助け給ひし御勳は、國民の共に欽仰し尊崇し奉るところである。こゝに於て皇太后を明治神宮に併せ祀ることとなり、大正四年五月一日官幣大社に列せられる旨御出されたのである。

御社殿は大正四年十月地鎮祭を行ひ、六ヶ年の星霜を閲して同九年十一月竣工、同時に鎮座せられ給ふ。造營に際し、規模大であつたに不拘學國蒼生の熱烈なる奉仕によつて造營工事の進捗比類なく速かであつた事は特筆すべきことであつた。これ海に全國民赤誠の結晶に外ならぬ處である。神苑は、祭神が履行奉啓あらせられし御由緒を有し、且つ樹林泉池の幽



遠なること市内に見る代々木の御料地を選定せられたものである。社地の總面積約二十一萬九千五百坪、苑地の数は十二萬六千餘本、この内約十萬五千本餘は日本全國各地から奉納せるもので、その種類は我が國所産の殆ど全部を網羅し、天皇を御奉り奉る國民の赤誠を永へに傳へてゐる。境内に祭神と御由緒から名を冠し「御御苑」がある。これは、明治天皇が特に昭憲皇太后の御ために造營せしめ給うたもので、極めて風致に富み、その北部に加藤清正が掘つたと傳へられる「清正井」があり、また南部には明治初年に全國から各種の優良なる萬葉を集めて培植せられた「萬葉田」があつて花期の美観云はん方無く、毎年六月下旬頃の花期には一般の参觀が許される。御苑入口の左側、南邊道に面して名木「代々木」があつて代々傳へたので此の名があるといはれ、「代々木」の地名はこれら起つたものであると傳へられる。

「寶物殿」は本殿の北方にあり、祭神に最も御關係の深い御物を保存し、國民一般に拜觀を許してゐる。拜觀料大人十鐘、小人五鐘。

**明治神宮外苑** 四谷區飯ヶ丘町及び赤坂區青山に跨り、神宮内苑とは北邊道に依つて連つて居る、省線電車(中央線)信濃町下車、市電橋田原青山三丁目、同四丁目下車、地下鐵電車神宮外苑前下車等。

廣大な地域を擁し、十ヶ年の歳月を費して大正十五年十月竣工したもので、苑内に 明治天皇聖徳記念繪畫館・憲法記念館・明治天皇聖徳殿・日本青年館等の建築物があり、また西南隅には大競技場・野球場・水泳場・相撲場等がある。

神宮外苑の大部分の地は、もと青山練兵場であつた所で、明治天皇の御勳がその北部に造營せられたが、のち明治神宮が代々木に鎮座せらるゝに當り、その附近の地を含めてこゝに外苑が造られたのである。その經營は實に神徳を慕ひまつる爲の構築であつて、林泉を配し、以て聖徳を永へに實に大業を無窮に記念し奉るものである。苑の過半は清涼なる芝生によりて明麗廣潤なる氣分を漲らせ、之に櫻・梅・白樺・赤松・黒松・ヒマラヤシダー・公孫樹・唐楓・山櫻など約三萬五千本の樹木を配して最新の公園的設備を施してあり、神聖を齎せまつり最も神聖なる森嚴莊重の地境たる内苑とは趣を異にしてゐるが、その根本精神に至つては兩者之を同じうするので、内苑の森嚴と外苑の雄偉と相俟つて大神域をなすものである。

参道青山口から外苑に入れば、公孫樹が列をなして列り、右方に徳川家達公遺文に係る「明治神宮外苑之記」の碑、左方に遊戯設備の整つた「兒童遊園」がある。またこの附近に俗に「ナンヂヤモンヂヤ」の木と云ふヒトツバタゴの木があつて、天然記念物に指定されてゐたが、今は枯れてその代樹として下總神社から若木を移植してゐる。公孫樹の並木の終り所から環狀道路が左右に分れ、中に廣い芝生があり、その左方には野球場・相撲場があり、その先の飯ヶ丘口を出れば外苑に「日本青年館」の巨館がある。その背後(聖徳記念繪畫館)に向つて左側に山櫻の並木を繞らし大競技場があり、競技場の右方に水泳場がある。また環狀道路を右にゆけば横の大樹がある。これは青山練兵場に於ける觀兵式の折、常に玉座となつた通りを記念する木である。更にその先の橋田原口を出れば「憲法記念館」がある。右側の環狀道路を尙進めば唐楓の並木の最奥部に「聖徳殿」があり、樟の巨木が植ゑられて居る。その前に「聖徳記念繪畫館」の大風がある。尙舞臺殿から道路を隔て、相對する樹林の間に横造の神太國境標石が建つてゐる。之は第四測地點にあるものを形取つたもので、神太からの奉獻である。

●憲法記念館 赤坂區青山橋田原町にあり、市電橋田原・省線信濃町下車。この建物はもと赤坂親身居内にあつて、憲法制定の會議が行はれ、明治天皇の臨御を仰いだ所である。その後伊藤博文に下賜せられ、一時大井町の伊藤邸内に移されたが、博文の後嗣伊藤邦が明治神宮に奉獻したものである。拜觀無料、毎日午前九時から四時迄。

●聖徳記念繪畫館 明治天皇及昭憲皇太后の御事蹟を現はした繪畫を陳列するために建設された近代式の大建築である。即ち御事蹟から畫題八十一號から八十號迄で右翼の二室に陳列、各四十題を現代一流の畫家に描かしたものである。毎日午前九時から午後四時(冬季は三時迄)開館、大人十鐘、小人五鐘。

**別格官幣社 靖國神社** 豊町區富士見町三丁目、九段上に鎮座。市電九段坂上下車、省電飯田橋駅から一軒餘。

軍務官知事仁和寺宮嘉彰親王勅を奉じて祭主となり、鳥羽、伏見の戦から函館の役に至る戦死者を鎮祭せられたのを起



原とし、初め招魂社と稱したが明治十二年現在名に改稱された。幕末の  
際國事に奔走して瘞れた志士も合祀せられた。その後、佐  
賀ノ役・臺灣ノ役・西南ノ役・日清ノ役・日露ノ役・日獨ノ役・  
支那事變・臺灣霧社事變近くは滿洲事變・上海事變・支那事  
變等に戦死せられた將士の靈を次ぎ／＼に祀り、現在（昭  
和十五年四月）迄の合祀五十六回、祭神十七萬九千四百柱  
に及んでゐる。

社殿は東に面し巨棟高檜上古の風を模し清淨森嚴であ  
る。社域は宮城の乾に位し、眺望に富む高燥開潤の佳境を  
占め、苑内には櫻樹多く、花期には櫻の名所となる。

社前に天下無比の大華表（即ち一ノ鳥居）高さ二十一米、柱間六米の銅  
製で大正十年四月東京砲兵工廠の鑄造。向二ノ鳥居は高さ十五米、周三米  
七の青銅製で諸藩から運納した大砲等を鑄造して明治十九年十月建てたも  
のであり、又日本一ノ石鳥居は高さ十米餘、周三米七の花崗岩製である。  
中央に長州藩士大村益次郎の銅像（この像は彼が軍防事務局判事として上  
野野砲隊の討伐に當り、江戸城内の高檜から遙に上野の火砲を望み、側  
者に官軍勝てりと語りて檣を下りた時の英姿を寫したものであると云ひ、  
明治二十一年東京市に於て最初に建てられたものである。銅像の周圍に  
は伊豆山山の反折城に於て江川英龍の子、英敏・英武が鑄造した大砲が並  
べられてゐる。之はもと品川奉場に備へ付けられて江戸城の防備に充てた  
ものであると云ふ）がある。社側に古今の武器及戦利品を陳列する遊藝館  
及び我陣海軍に於ける最新の科學兵器を陳列公開してゐる國防館があり  
その他樂堂・相撲場等もある。

例祭（四月三十日及び十月二十三日）には勅使の參向あり、陸  
海軍參拜の擧式があり、餘興として相撲・能樂等が行はれ、  
例祭前後數日に互り立錐の餘地なき迄に雑沓し非常な賑ひ  
を呈する。

九段坂の地名は、此の坂路がもと石造の九箇の階段から成り、そこに御  
用屋敷の長屋が九段に建てられてゐたので、これを俗に九段長屋と稱した  
のに由来すると云はれる。

府社 龜戸神社

城東區龜戸町三丁目に鎮座、市電龜戸下車

祭神、天満天神。（菅原道真）相殿神、天、壽、日命。  
明暦三年九州太宰府の神人大鳥居（菅原）信祐の勸請にかゝ  
り、寛文二年徳川家綱から社地を奉け、同三年創建したも  
ので、俗に龜戸天神と稱して江戸に名高い神社の一であつ  
た。境内に藤が多く（古來藤の名所として知られ、長さ數尺に及ぶ紫白  
の藤が池水に映する有様は仲々風情がある、花期は四月下旬乃至五月上旬で、  
毎年五月一日から十五日迄境内で藤祭が行はれる）、名高い太鼓橋が二  
つ池上に架つてゐる。例祭九月廿五日、また一月初卯の日  
に鷹換の神事が行はれ、俗にこれを初卯詣と稱する（木を以  
て鷹の形に造つたものを神前にある鷹と取替へて鷹を轉じて善となす呪であ  
る）。

府社 神田神社

神田區宮本町に鎮座、市電明神前下車、二三百米

祭神、大己貴命・少彥名命。相殿神、平將門。  
聖武天皇天平二年（紀元一三九四年）又は延長年間とも云ふ）の創建  
と傳へる由緒ある古社で、天和年間駿河臺から今の地に遷  
座されたものであると云ふ。俗に神田明神と稱し、江戸時  
代徳川氏の崇敬篤く、また南は京橋、東は大川、北は湯島、  
下谷、西は小川町までの總産土神として古來市民の崇敬が  
甚だ篤かつた。

また五月中旬に行はれる所謂「神田祭」は日枝神社の祭禮と年を隔て、  
（丑・卯・巳・未・酉・亥の隔年）に行はれる江戸時代からの有名な大祭である。  
社殿は大正大震災の時全部烏有に歸したが昭和九年五月現在の朱檜の壯麗  
な姿に復興したのである。

府社 【金刀比羅宮】

芝區琴平町に鎮座、市電虎の門下車

祭神、大物主命・崇徳天皇。萬治二年丸龜城主が讃岐の金刀比羅宮の分宮を三  
田の藩邸に勧請し、延寶七年現在の地に遷座したもので、京極家の私神社で  
あつたが、明治初年一般の参拜を許し公認神社となつた。毎月十日の祭日に  
は参詣者群集し、その参客の多いことは水天宮と伯仲すると云はれてゐる。  
十月九日の例祭には大和舞が奏せられる。

府社 【天照大神】

芝區宮本町に鎮座、市電大門下車

祭神、天照大神・豊受大神。一條天皇寛弘二年の創建で、伊勢大神宮の御  
分靈を鎮祀し奉ると云ふ。もと伊勢の神宮の神領地であつた飯倉山に鎮座し  
たので、古人は飯倉大神宮と稱し、増上寺の鎮守であつた。源頼朝以來徳川  
家景代の崇敬が篤く、關東有数の大神宮として社運盛大を極め、もと神明宮  
と號したが明治五年現社名に改め府社に列した。  
例祭九月十六日、祭禮は十一日から廿一日に亘つて行はれ、俗に「たらた  
ら祭り」と又は生婆祭と呼はれ「ちぎ箱」と「めつちち生婆」を尙ふ市が立つ  
て賑ふ。

府社 【松陰神社】

世田谷區若林町に鎮座、市電車下高井戸ゆき松陰神

社前下車北約二五〇米。祭神、吉田矩方（松陰）。明治十五年毛利元徳の創建  
にかゝり、社殿の西に松陰の墓がある。例祭十月十七日。  
松陰は幕末愛國の志士で、安政元年米津渡來の折、海外の事情を探らんと  
して密航を企てたことは史上に著名な處である。松陰はそのため獄に下りて  
同年小塚原に斬られ、兩國回向院に葬られ、のちここに改葬されたものであ  
る。尙附近に頼三彌三郎・小林民部少輔・來原良藏・福原乙之進・綿貫治郎等  
の幕末の志士並に桂太郎の墓がある。

府社 【築土八幡】

牛込區築土八幡町に鎮座、市電築土八幡前下車

祭神、應神天皇。社域は高燥にて眺望絶佳の地を占む。

府社 東郷神社

澁谷區原宿三丁目に鎮座、市電原宿下車徒歩約半軒、又は市バスにて同神社前下車

祭神、東郷平八郎。  
昭和十五年、東郷元帥の遺徳を欽仰して神社を創建、英



豊を永へに鎮祭せるもので、木の香新しき總槍造りの神殿は杉木立を後にして莊嚴極りない。例祭五月廿九日。

祭神は海軍々人、用意周到なる深慮と斷乎たる決断力を以てよく日露會戦の危機を脱し、日本海大海戦に大捷を擲して祖國を泰山の安きに置いた勳功は、吾人の一日たりとも忘れ得ぬ處である。元帥は幼名を神五郎と云ひ、弘化四年十二月廿二日今の鹿兒島市下加治屋町に生れた。十四才の時元服して平八郎と改む。日露大海戦後(明治四十年八月)功により特旨伯耆を賜ひ、更に大正二年四月には元帥の稱號を賜うた。昭和九年米壽の高齡に達し、愈天壽を全うせんとす。五月廿九日、異きあたりでは侯爵を贈授、更に翌三十日從一位を賜ふ旨仰せ出された。五月三十日薨去するや、生前の勳功により特旨國葬を賜はり、多摩原地に葬られたのである。國民の元帥の遺徳を追慕する情は遂に「東郷神社」を創建して英靈を永遠に鎮祭することとなり、明治神宮神苑に近き原宿の海軍館と隣接して廣大なる神域を定め、全國からの淨財と國民の勤勞奉仕によつて昭和十五年春木の香新しき神殿竣工、五月廿七日の日本海々戦三十五周年の記念日を卜して鎮座祭が嚴かに執行せられたのである。

### 府社 東照宮

下谷區上野公園内に鎮座  
市電上野公園前又は東照宮下車  
省線・地下鐵は上野下車

祭神、徳川家康・徳川吉宗。社殿は本殿・幣殿・拜殿・唐門及透塀を具備せる権現造りで裝飾豊麗、何れも國寶になつてゐる。例祭四月十七日。

徳川家康駿府城に於て薨す。神皇正統記に於て「同國久遠山に埋葬、更に下野國日光山に改葬したが、歳時傳則に不便を感ずる處から、江戸城内紅葉山に遷廟を遺言し、更に元和九年現在の「上野忍ヶ岡」に祠廟を設け、寛永の初め天海僧正が宮殿・護摩堂・大塔等を完成した。正保二年(紀元二二〇五年)宮號宣下あり、慶安二年(紀元二二〇九年)には、後光明天皇御宸筆の勅額を賜ひ、同年勅額門の遺言があつたが、慶安二年火災に罹り、勅額を焼失して了つた。徳川中興の祖たる八代將軍吉宗の靈は昭和四年四月合祀されたものである。神殿正面、石の臺の左手に俗に「お化け燈籠」と稱する春日形の大石燈籠がある。これは寛永八年佐久間大亮亮平勝が寄進したもので、高さ二丈二尺五寸、笠石の直径一丈二尺あり、京都の南禅寺、尾張の熱田神社のそれと共に日本三大石灯の一として著名なものである。

### 府社 乃木神社

赤坂區新坂町六三に鎮座  
市電乃木坂下車

祭神、乃木希典。配祀、乃木節子。

大正十二年十一月一日、陸軍大將乃木希典夫妻の遺徳を敬仰し有志等相議して創建せるもので、社に接して舊乃木邸がある。例祭九月十三日。

大正元年九月十三日、明治天皇の御登遐に殉じて、乃木大將夫妻が自及せられるや、その誠意に感動して乃木邸へ遷葬するもの日に月に數を増すに至つたので、阪谷男爵等によつて中央乃木會が組織され、乃木邸内に英靈を奉安して毎年九月十三日には祭儀を舉行し、或は講習會を開いて其傳徳を宣揚し以て世風を警むるに努めたのであつた。大正五年十一月立太子禮を行はせ給ひに當り大將在世中の忠節を思召されて正二位を贈らる。同八年五月神社建設を許可せられ、明治神宮の御鎮座を期として遺言の工事を起したが、遺言に際しては長くも宮内省より御下賜金があつた。乃木邸は東京市の管理に屬し公開されて居り、大將夫妻の墓は青山共同墓地内に在る。

府社【水川神社】 赤坂區水川町に鎮座(市電福吉町下車)  
祭神、素戔鳴命・大己貴命・稻田姫命。當社の創建年代は不詳であるが、徳川時代からの名刹で、明治二年勅祭社に列せられた。例祭九月十五日。

府社【宮岡八幡神社】 深川區宮岡町一丁目、深川公園内に鎮座(市電深川不動車下車) 祭神、天照大神・天兒孫根命・聖田別命・仁徳天皇・日本武尊外二柱。天平寶字年間右大臣藤原成成が創建したと傳へ、源頼朝・足利氏累代・太田資持等の尊崇篤かつたと傳へる名刹で、明治元年勅祭社に列せられた。現在の社殿は震災後の復興建築にかゝる宏大な結構である。境内に横綱力士の碑がある。例祭八月十四、五、六日。

### 府社 湯島神社

本郷區湯島梅園町、湯島公園内に鎮座  
市電天橋下下車  
市電湯島下車

祭神、天手力雄神・菅原道真。江戸開府以前、即ち、雄略天皇の御宇二年勅令により創建された名刹で、菅原道真は文和の四年の勸請に係ると傳へ、俗に湯島天神と稱して廣く崇敬を集めてゐる。

往時は社運大いに振つたが、文久三年の大火に依り舊記録を失つたのでその詳細を知ることが出来ぬと云ふ。尚江戸時代には湯島宮殿が行はれたので有名である。境内梅樹多く、一部は急崖をなし眺望に富んでゐる。例祭五月廿四、五日。

郷社【淺草神社】 淺草公園内に鎮座(市電及地下鐵雷門下車)  
祭神、土師眞仲知命外二神。俗に三社樓と稱し、慶安年間三代將軍徳川家光の建立にかゝり、五月十七日の例祭には「びんざら神事」と云ふ極めて古式の舞が奉仕され、所謂三社祭として世に名高い。

三社樓現は、推古天皇三十六年三月十八日、宮戸川(隅田川)に網を下して一寸八分の錨の尊像を得たと云ふ處神知・濱成・武成の主従三人の遺師を祀つたものである。

郷社【王子神社】 王子區王子町に鎮座(市電飛鳥山下下車。省電王子驛の西北三〇〇米)。祭神、伊弉諾命・伊弉册命・天照大神・外二神。王子権現とも稱し、現在の社殿は寛永十一年三代將軍家光の遺言に係り、橋門・舞殿・本殿は何れも丹楹の壯麗な権現造りである。元享年間領主豊島氏の紀州熊野神社を勧請して若一王子宮と稱して崇敬したの始まり、北條氏の

崇敬篤く、また徳川幕府の尊崇も篤かつた。毎年八月十三日には古風な田樂舞が行はれる。これは祭神とも稱し、舞臺の花笠を奪つて開運の守とする昔からの習慣があつて、時には怪我人を出す程の大騒ぎを演ずるのである。附近野川沿線の丘邊を權現山と稱し、紅葉の名所として知られてゐる。

村社【穴守神社】 湯島區羽田穴守町に鎮座(省線(京濱線)湯島駅の東五軒、京濱電車穴守終點下車) 祭神、豊受大神。文政年間鈴木五郎門が當地開墾の時稲荷の小祠があつたが、明治の中期から次第に民間の信仰を集めて其の名を遠近に知られ、參詣者が増加したので、同地の人々が豊受大神を祀つて穴守稲荷と稱した。爾來京濱地方屈指の名刹となり、常に參詣者の絶えざることなくまた新願のため奉獻された赤鳥居が境内に山積してゐる。例祭十月十七日。神社附近の海は海水浴や船遊び、潮干狩等に適し、また神社背後の樹林には東京附近には珍しい鶴の群棲地がある。

郷社【水天宮】 日本橋區橋本町三丁目に鎮座、市電水天宮前下車。  
祭神、安徳天皇・建禮門院・二位尼。當社は久留米市瀬之下町鎮座の縣社水天宮の分社で、文政元年十一月に江戸三田赤羽根なる久留米藩主有馬氏邸内に勸請、明治五年現在の地に遷座されたものである。水難・安産・一切の水商賣に利益があるとして常に參詣者が多く、殊に毎月一日・五日・十五日の縁日にはその盛況言はん方なく、參詣者の多いこと帝都第一と稱せられる。例祭四月十日。

災の折大佛を除き諸堂悉く烏有に歸したが、此時の殉難者十餘萬人の遺骨も大佛に合葬されてゐる。尙草地には加茂真淵門下の國學者加藤千蔭及び山東京傳・同京山・風小僧次郎吉の墓がある。相模で名高い國技師は宮院の北隣にある。これは寛政以後宮院の境内に勸進角力を行ったのが縁起として縁起として今日この隨處を見るに至つたものであると云ふ。

【同向院】(浄土宗) 荒川區南千住五丁目にあり、寛文二年兩國同向院の分院として小堀原利場の露と消えたもの及び江戸の大地震に壓死したものを供養する爲に建てられたものである。院内に橋本左内・吉田寅次郎・梅田雲濱・佐野竹之助・小田彦三郎・相馬大作等志士烈士の墓がある。

### 寛永寺

(天台宗) 東山(下谷區上野公園地、東京帝室博物館の東隣)にあり、名額・地下鐵上野驛から數百米。東叡山圓頓院と號し、寛永年間江戸城鎮護のため天台僧正(慈眼大師)の創建にかゝり、元祿年間に至りて伽藍堂宇全く備はり當時上野全山三十三萬三千餘坪を境内とし朱印一萬二千石を領し、芝増上寺と併稱して江戸兩山と云はれた名刹である。慶安元年守澄親王(後水尾天皇第三皇子)を迎へて第二世とし、明暦元年後西天皇の詔によりて天台座主となり、比叡・日光・東叡の三山を管領し給ひ輪王寺宮の號を賜はつた。明治維新前は全山神祠堂舎三十二字、支院三十六坊、今は三十五院となり櫻木町に點在す。將軍靈廟七所等覺を連ね輪奐壯麗を極めたが、明治元年彰義隊の據る所となつてその兵火に罹り、現存するは清水堂・兩大師・五重塔・東照宮・辨天堂及び將軍靈廟のみである。

今東京帝室博物館のある所は、もと寛永寺本坊即ち法親王常住坊舎のあった位置で、舊の正門は従來帝室博物館の正門となつてゐるが、先年帝室

博物館新館の建築と同時に東隣の慈眼堂境内に移建された。また正門前の竹ノ臺にはもと中堂があり、中堂の前には大塔と圓堂が相對し、更に法華堂の二堂があつて渡殿によつて連體され、輪奐の美を備へてゐたと云ふ。今の寛永寺中堂は明治八年に上州世良田の長樂寺本堂を移して舊大慈院跡(慶喜齋居の所)に再建したものであると云ふ。

◎慈眼堂(兩大師) 開山慈眼大師の御影堂で大師入滅後徳川將軍家が建立したものである。この堂を兩大師と云ふのは、大師の生前尊崇した慈惠大師の御影をも併せて安置してある爲である。堂の西側後方には守澄法親王、天眞法親王、東山天皇皇子公實法親王など歴代の輪王寺門跡の御影があり、宮内省の管理に屬してゐる。

◎徳川四代將軍靈廟(國寶) 第一靈屋と稱し、第二靈屋と左右相隣つて博物館の裏手にある。殿有院家廟の廟所で、天和元年創建のものは元祿十一年の江戸大火に焼失し、現存のものはその翌年の再建である。本殿・拜殿・唐門・水屋・鐘樓及び二門を具備せる靈屋と、付切間を距てた隣にある墓所とから成つてゐる。尙本殿内陣には三代・十代及十一代將軍の厨子が安置され、廟所には十代家治法親王、十一代家齊文恭院の寶塔がある。

◎徳川五代將軍靈廟(第二靈屋) 稱し、第一靈屋の西に接し寛永寺の東側にある。常寧院稱吉の廟所で寛永十一年の竣工、建築配置は前者と略同様であるが頗る精美である。尙本殿には八代將軍有徳院吉宗、十三代將軍温恭院家定、十代將軍綱子家基及十三代將軍家方各の位牌も安置され、廟所には八代、十三代將軍及同夫人天璋院の各寶塔もある。

◎五重塔(國寶) 東照宮の前であり、遠くから望んで上野の森に風致を添へてゐる建物で、江戸時代初期に於ける典型的なものであると云ふ。寛永二年土井利勝の創建にかゝり、同十六年焼失したが同年直ちに同氏に依つて再建されたものである。

### 護國寺

(新義真言宗) 芝區車町(小石川區大塚坂下町)にあり、市電護國寺前下車。神齡山悉地院と號し、徳川五代將軍綱吉の生母桂昌院の祈願所として天和元年(紀元二三四一年)亮賢僧正を開山として創建した江戸屈指の巨刹である。本尊は柱昌院の持佛、天然の琥珀の如意輪觀世音菩薩像で、帝都七觀音の一として聞え、觀音堂(元祿十年の建立)・月光殿(もと大津市の圓城寺にあつた月光院の客殿で、桃山時代の形式を備へた代表的建物)は國寶になつてゐる。

### 泉岳寺

(曹洞宗) 芝區車町にあり、市電泉岳寺前下車。慶長十七年徳川氏が宗廟に命じて創建すと傳へ、萬松山と號し、古の關府六箇寺、曹洞宗江戸三箇寺の一たる名刹である。舊播州赤穂城主淺野氏の菩提所で、元祿十四年淺野長矩を此處に葬り、次いで復仇の大義を成就した赤穂義士四十七士の墓所を置かれてから當寺の名全國に著はれ賽者接踵し、香華の絶ゆることがない。

### 淺草寺

(天台宗) 阪東第十三番札所) 淺草區淺草公園地にあり、市電地下鐵雷門下車。金龍山傳法院と號し、俗に淺草觀音で全國に知られてゐる名刹である。本堂は市内隨一の盛り場の中心にあり、俗に十八間四面と云ふが東西十六間四尺四寸、南北十五間一尺六寸、總朱塗の華麗な建物で、(近年大修繕を加へて一入偉觀を増した) 慶安二年(紀元二三〇九年) 徳川家光の造營にかゝり、本尊は一丈八分の黄金佛と云はれる秘佛觀世音菩薩立像である(古傳に 推古天皇の三十六年當地の漁人土師真仲知とその臣船前清成武成の三人が宮戸川に網して得たと云ふ尊像を安置したのが當寺の起源で、現在馬道六丁目の俗稱華堂を以て其舊跡となしてゐる)。

境内には 明治天皇の御生母中山從一位局御墓を始め奉り、維新の元勳三條實美・大隈重信・山縣有朋及び山田顯義・關原謙など名士の墓がある。尙境内に豊山中學校あり、東隣の豊島ヶ丘には小松宮・有栖川宮・北白川宮その他皇族の御墓あり、寺背の大塚先儒墓所(此處は元水戸藩の儒者人見道生の私邸の在つた所と云はれ幕府に召された儒者の儒葬地とされたので當時の人呼んで儒者墓と稱した)には八代將軍吉宗に用ひられた有名な學者室鳩巢を初めとして、寛政三博士と云はれた梨野栗山・岡田宗泉・尾藤二洲及び江戸末期の儒者古賀精里、その子古賀桐菴等の墓があり、更に大正三年には木下順庵一家の墓も大塚區池上から移され、指定の史蹟となつてゐる。

### 臺徳寺

(曹洞宗) 世田ヶ谷區世田ヶ谷三丁目にあり、市電臺徳寺前下車東北へ二五〇米。文明年間この地の豪族吉良左京大夫政忠が、伯母弘徳院の冥福の爲め創建したと傳へる古刹で、寺内の墓地に井伊直朝の墓がある。境内の招福塚は花柳界の墓所が多いと云ふ。

### 三寶寺

(新義真言宗) 芝區上野神井町二丁目にあり、西武電車上野神井驛又は武蔵野電車石神井驛下車、天文年間 後奈良天皇から勸願所の繪目を賜つた名刹で、智山園東十一檀林の一になつてゐる。境内に三寶寺池があり、池中の小島に密生してゐる「沼澤植物群落」は指定の天然記念物になつてゐる。

### 榮又帝釋天

(日蓮宗) 葛飾區榮又町一丁目にあり、京成電車榮又下車。寛永六年(紀元二二八九年) 或は正保元年即ち二三〇四年とも云はる) 中山法華經寺第十九世那院日忠が、法華經の寶藏中から帝釋天を遷座して創建したと傳へ、本尊は日蓮の自作と傳へる帝釋天王(長さ二尺五寸、幅一尺五寸許りの梨板に刻したもので、裏には兩尊四菩薩の字を現してある)を安置してゐる。庚申の民間信仰と結びついて信者が多く、初庚申の日の賑ひは想像以上である。寺の後園を抜けると風致區になつてゐる江戸川堤に出る。

### 青松寺

(曹洞宗) 芝區愛宕町一丁目にあり、市電御成門下車。品川の泉指寺及び橋場の泉寺と共に江戸の曹洞宗三大寺の一に數へられた名刹である。境内は愛宕山の南に接して廣く、上海事變で雄名を馳せた爆彈三勇士の銅像があり、後方の丘上墓地には江戸の儒者井上金峨の墓がある。

### 善福寺

(真宗西本願寺末) 麻布區山本町にあり、市電二ノ橋下車。弘法大師が紀州に高野山を建立後、東北巡禮の時(天長九年) 當寺を建立して高野山と稱したのが當山の創草で、現在宗に改められたのは第八世海上上人の時

本堂、五重塔（慶安元年建立）は共に國寶になつて居り、大正十二年の大震災には奇蹟的に火を免れ、觀音菩薩の慈光に浴せんとする善男善女の尊崇を益々深くして日夜賽者の絶える時がない。境内の半地は淺草公園となつて居り、各種の娛樂機關が四圍に設けられ、所謂淺草六區の不夜城の賑ひを呈してゐる。

いま一山の寺務は子院傳法院にて取扱はれる。同院の庭園は寛永年中小瀬遠州の遺骨と傳へ、市内でも代表的の名園として著名である。尙觀音堂の正面にある仁王門は、朱塗の樓門で東京市内に於ては芝増上寺の三門に次ぐ雄大な樓門で、賽者奉納の大提灯及大ワラヂが人目を惹く。門前は所謂仲見世と稱して各種の土産物を商ふ小店が兩側に軒を連ねてゐる。

○淺草寺の主なる法會 一月一日・二月廿八日・三月四日・四月十八日・五月十八日・六月十八日・七月十日・八月廿四日・九月二十日・十月十九日・十一月七日・十二月十九日はお茶湯日。一月十七日は湯立・翌十八日は亡者送り、五月十七日は三社祭禮、七月十日は觀世音四萬六千日、舊九月九日は菊供養がある。

【總持寺（西新井大師）】（新義真言宗豐山派）足立區西新井町にあり、京成電車大師前下車。又は東武鐵道西新井下車西へ一軒。弘法大師の創建にかり、本尊は大師自作の十一面觀世音菩薩と傳へられてゐる。境内廣く、大師堂の弘法大師像は一に厄除大師と稱して衆庶の信仰篤く、川崎大師と併稱される北郊第一の大伽藍で、一年間の賽者は百五十萬人に及ぶと云ふ。殊に毎月二十一日の賽日には參詣人群集し、苗木市などが立つて非常な賑を呈する。

増上寺（淨土宗關東總本山）芝區芝公園二號地にあり、市電増上寺前、各電濱松町下車約半軒。三條山廣慶院と號し淨土宗四箇本山の一にして同宗關東十八檀林の冠首たる名刹である。創建年代は不詳であるが、（空海の法弟宗叡の開創に係るとも云ふ）天正十八年源譽上人（觀智國師）の代に至つて徳川氏の菩提所となり、慶長三年家康が廣大なる寺地を寄せて現在の地に伽藍を造營して江戸屈指の大伽藍となした。即ち江戸時代に

西本願寺別院 京橋區築地三丁目にあり、市電築地下車。京都西本願寺の別院で俗に築地本願寺と稱し、また築地門跡・築地御坊とも云ふ。江戸時代には寛永・増上の二山及び淺草寺と共に兩山兩寺と呼ばれ幕府の崇敬自ら異つたと云ふ。現に東京教區三百ヶ寺、奥羽教區五百ヶ寺を管し、その信徒を崇敬門末となしてゐる。現在の伽藍は大正の大震災後、伊東忠太博士の設計にかゝり四年の歳月と百五十萬圓の工費とを以て完成した石造の古代中印度佛敎式と稱する豪華な大伽藍で、古典とモダン味を巧に調和せしめたもので、東京の新名所の一となつてゐる。

京都本願寺第十二世准上人は東西本願寺分離の後を承け關東に根據地を定むる必要を感じ、淺草濱町（今の日本橋濱町）に一字を建立したので當別院の創草と云はれ、のち幕府から江戸海岸の濱を給せられたので土地を築いて再興したが故にこの地に築地の名を生じたと云ふ。その後數度の災害を蒙り一旦崩れたが大正の大震災にまた、鳥有に歸した。現在の伽藍は昭和十年落成したもので、間口四十八間、奥行三十一間、高さ百十尺、總延坪一千九百六十一坪あり、本堂は二十四間四方で九百と云ふ椅子席がある。右翼の數樓には豊臣秀吉が朝鮮征伐の折分捕つたと云ふ直徑九尺の時の太鼓があり、左翼の數樓には太田道灌が江戸城の陣中に用ひたと云ひ傳へる鐘をつるしてゐる。この鐘はいま電氣仕掛けで自動的に鳴り出す様になつてゐる。

境内には日清・日露兩戰役死者の忠魂碑及び開新六・酒井抱一・爲永春水・樋口一葉・土生玄嶺の墓、九條武子の歌碑等がある。

【梅照院（新井寺）】（新義真言宗）中野區新井寺町にあり、西武電車新井寺前下車。西三〇〇米、省線電車中野駅から北約一軒。天正十四年（紀元一四六六年）梅原將監（法名行春）の開創と傳へ、本尊觀音如來は俗に子育觀音と云はれて四方に靈驗を喧傳せられ、殊に寛永元年徳川秀忠女和子（東照門院）が眼病平癒の効驗により寺田若干及び松高山梅照院觀音王寺の號を興へた。毎年一・五・九月の八月及十二月は縁日として殊に賑ふ。大師堂後方は遊園地となつてゐる。

尙附近に文學博士井上圓了が私園として創設した「井上哲學堂」（四聖堂・六賢堂・三學亭あり）がある。

は上野の寛永寺と相對して勢威を張り諸堂宇・徳川靈廟等鱗立して頗る宏壯を極めたが、徳川幕府の滅亡と共に寺勢自ら衰替し、諸堂亦明治四十二年の火災のため焼失し、往時の建物は僅かに三解脱門（正面の山門で慶長十年の建立。五間三戸朱檜入母屋造りの樓門で江戸時代初期に於ける禪宗三門風の結構雄大な建築である。市内最古の木造建築物として知られ、國寶に指定されてゐる）のみで、今の本堂は大正十年の建築である。

境内に護國殿（黒本尊）（黒本尊とは本尊無量壽如來の俗稱）、徳川家靈廟（二代將軍白徳院の廟所と同裏方崇源院靈廟所の南靈屋と、六代將軍文昭院及七代將軍有章院廟所の北靈屋の二ヶ所に分れ、その結構精緻華麗なることは日光に亞ぐの稱があり何れも國寶。拜觀料一ヶ所三十錢二ヶ所六十錢。毎日朝八時から後四時迄）があり、寺寶として國寶の法然上人繪傳（紙本著色二卷、傳土佐吉光筆）、大藏經（宋版・元版・高麗版の三部約一萬二千冊）及び五百羅漢像（狩野一信筆、紙本著色百幅）其他を藏してゐる。

【傳通院（淨土宗）】小石川區表町にあり、市電傳通院前下車。應永二十二年（紀元二〇七五年）了譽聖上人の開山にかり、無量山壽經寺と云ふ。慶長七年、徳川家康が生母傳通院（水野氏）伏見に歿するや、遺骸を江戸に迎へて當寺に葬り、同十九年傳通院十三回忌に際し寺額三百石を寄せ、關東十八檀林の一に加へて江戸屈指の大寺となしたのである。境内に豊臣秀頼の室であつた天樹院千姫の墓がある。

【東海寺（臨濟宗大徳寺派）】品川區北品川町三丁目にあり、京濱電車北馬場下車。寛永十五年（紀元二二九八年）の創建で開基は徳川家光、開山は澤庵宗彭、高松山と號し本宗別格寺たる名刹である。澤庵は當時に於ける名僧で、家光深く之に師依して當寺を建立、堀井・酒井・細川・小田の諸侯また各子院を造り、往時は塔閣十七院を有したと云ふ。いまは衰微せるも、尙名利たるを失はない。境内に開山澤庵和尚墓（指定史蹟）を始め賀茂眞淵・服部南郭・坂垣退助等の墓がある。

【とけぬき地蔵】豊島區東横町二丁目にあり、省線東横町から一〇〇米、市電東横町前下車。高島寺（曹洞宗）の本尊地蔵は俗にとけぬき地蔵として廣く知られ、毎月四日が縁日で非常に賑ふ。

東本願寺別院 淺草區濱町にあり、市電菊屋橋下車。眞宗大谷派本願寺東京別院で、俗に淺草門跡と稱する。市内屈指の巨刹で子院二十四ヶ寺を有し、現在の本堂は大正の大震災後復興されたものである。

一宮院は、明治年間 天皇再度御臨幸の光榮に浴した。寺内には澤田東江・新井白石・清水清臣の墓がある。

【深川不動尊】深川區富岡町深川公園内にあり、市電不動尊前下車。千葉縣の成田山新勝寺の出張所で下町人の信仰甚だ篤く參詣者常に多く、毎月二十八日の縁日は殊に賑ふ。

【法明寺（鬼子母神）】（日蓮宗）小石川區雜司ヶ谷町三丁目にあり、王子電車鬼子母神前下車又は省線目白驛の東北八〇〇米。弘仁元年慈覺大師の創立にかり、もと眞言宗に屬し源家の新羅所であつたと云ふが、のち日蓮上人の時現宗に轉じたと云ふ。境内鬼子母神安座の鬼子母神は俗に「雜司ヶ谷鬼子母神」と稱し、安産子福一切の新羅成就として一般衆庶の信仰甚だ篤く參詣者が多い。毎月八月は縁日、一月十六日は射祭、十月十二日から十八日迄會式を行ひ十七日は殊に賽者集集し東京名物の一となつてゐる。境内に天然記念物指定の公孫樹の巨木があり、參道には櫛の並木がある。

本門寺（日蓮宗大本山）大森區池上本町にあり、省線大森駅から西約三軒（バス十鐘）又は池上電車池上驛下車北へ四百五米。長榮山大國院と號し、同宗四大本山の一たる巨刹で、寺域は樹木鬱蒼たる丘陵、幽澗閑雅の佳境を占め、釋迦堂・清正堂・題目堂・祖師堂・五重塔婆（國寶）・仁王門（國寶）等の宏壯な伽藍があり、關東屈指の名刹となつてゐる。

文永年間當地の郷土池上右衛門太夫宗仲日蓮に歸依してこれを創建したと傳へる。弘安五年（紀元一九四二年）十月十二日日蓮上人此處に入寂するや遺弟日朗その遺命により當寺と鎮倉妙本寺を兼帯し、文保五年當寺の遺骨成るや東國有數の巨刹となつた。徳川家康は寺領百石を寄せ、秀忠また歸依して山門及び五重塔を建て、當時一山の宮は十五萬石と稱せられた。加藤清正の崇信亦篤く四十間四方の祖師堂（結構壯大にて金剛峯寺・國城寺と共に日本三大堂の一に數へられた）を造營した。寶永七年火災の



宮城二重橋



楠木正成銅像

眞に諸堂宇焼失し現在の釋迦堂・祖師堂等は徳川吉宗の再建せるものであり。往時は子院三十六坊を有したが現在は十八院を残すのみである。日蓮上人入寂の日である十月十二日には毎年盛大なお會式があり、東京に於ける屈指の年中行事の一となつてゐる(十二日から十三日未明にかけて、殊に夜半には萬燈籠を掛し關原太鼓を叩いて繰込む數十萬の善男善女で境内は身動きもならぬ程騒動を呈する)。尚寺内には日蓮の廟所及び日蓮上人・池上右衛門夫妻・若野探幽・星亨等の墓がある。本陣庫裡の後方にある名園「松濤園」は明治神宮の隣西郷隆盛と勝安房の兩人が江戸城明渡しの上上に有名な會見をした場所であると云ふ。五重塔裏の園地は閑寂な本門寺公園となつてゐる。

【身延山開東別院】(日蓮宗)世田ヶ谷區玉川瀬田町にあり、玉川電車身延山別院前下車西へ約三〇〇米、御下多摩の清流を眺むる景勝の地に昭和七年建立せられたもので、祖師堂其他輪奐の美に富み参詣者が多い。

【妙法寺】(日蓮宗)杉並區堀ノ内一丁目にあり、西武電車妙法寺口の南八百米、又は新宿驛前から妙法寺近く迄バスのある。俗に堀ノ内御祖師様と云ふ。本堂日蓮上人像は俗に厄除御師と云ひ、弘長年間(六百七十餘年前)日蓮が異木を以て刻んだもので蓋繪顯著と稱せられ毎月十一・十三・二十三の諸日には参詣者が殊に多い。また十月のお會式は池上本門寺と併び稱される著名な年中行事となつてゐる。

【瀧泉寺(日蓮不動)】(天台宗)日蓮區下日黒三丁目にあり、日蓮電車不動前から西へ半軒餘。大同年間(一千百三十餘年前)慈覺大師の草創にかゝり、清和天皇並に後水尾天皇より勅額を賜つた名刹である。現在の本堂・仁王門等の堂宇は徳川家光の遺營(寛永十一年竣工)でその壯麗俗に日黒御殿と稱せられ、また本堂不動明王は東京三不動の一に數へられてゐる。本堂の裏手丘上に甘露先生青木昆陽・老農繪木久大夫墓、明治年代の書家西川春洞の碑があり、また門前には平井橋八と小紫とを合葬した比叡塚がある。

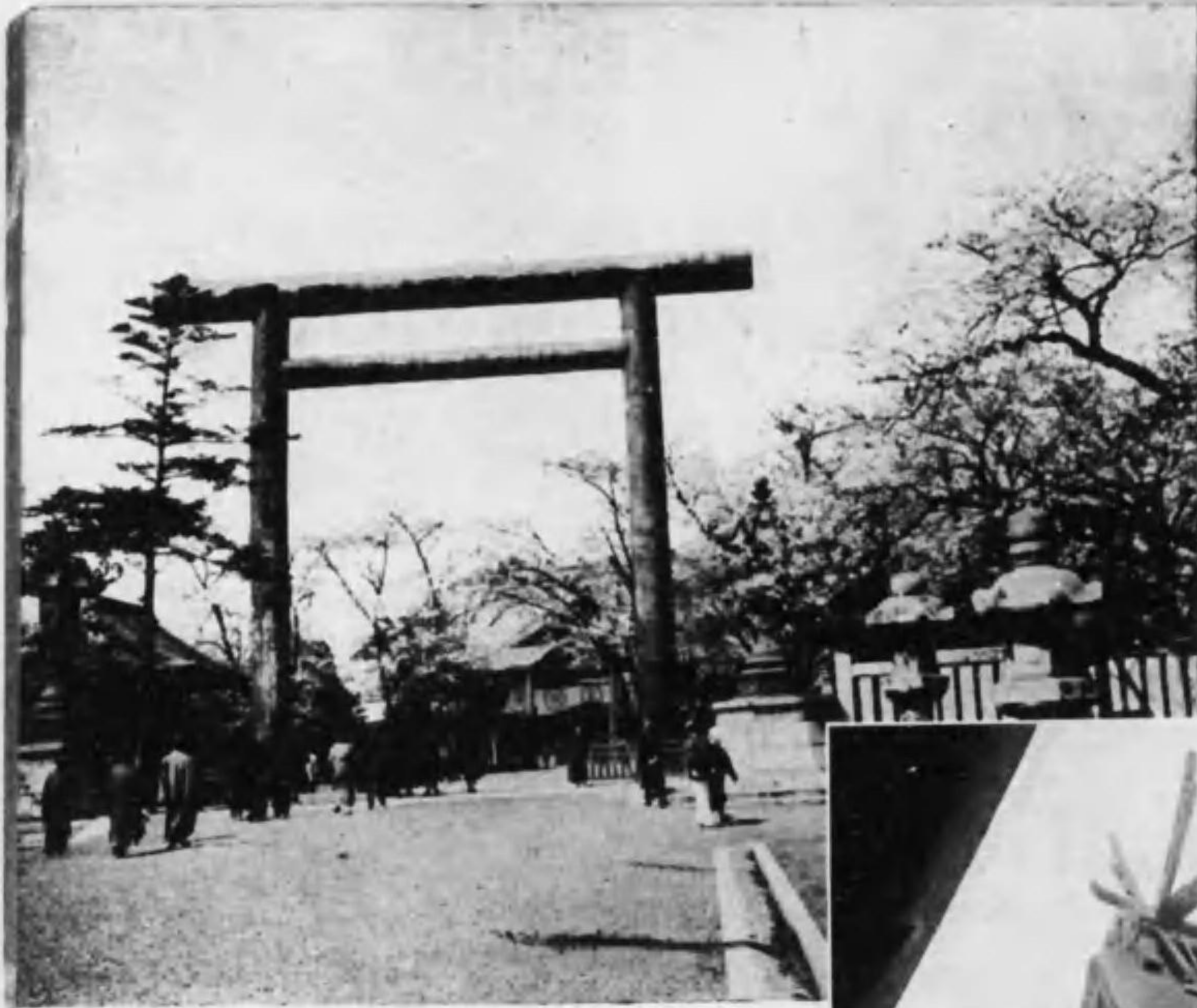
【靈巖寺】(淨土宗)深川區三軒町一丁目、所謂靈岸島にあり、市電深川區役所前下車。寛永元年僧靈巖が靈巖島を造つて草創したと傳へ、淨土宗十八檀林の一たる名刹であるが數度の火災に遭つて今は往時の盛觀は見られぬ。しかし境内には本多忠純・松平定信・指定史蹟・松平外記等名家の墓があり、また子院成等院には紀伊國屋文左衛門の墓、同じく正覺院には江戸時代の歌仙佐狂言作家木五瓶の墓がある。

淺草公園 市電・地下鐵・東武鐵道共に雷門下車。有名な淺草觀

音堂を中心とした廣大な地域を明治六年に太政官布告に依り公園となしたもので、上野・日比谷・芝の諸公園と共に東京市四大公園の一として著名な所である。寺域は東京市管理の下に公園となり、七區に分割され(二區觀音堂附近、二區門前から仲店の敷地、三區傳法院、四區觀音堂西の植込から飄池附近、五區觀音堂の地、六區大池の西から南にかけての一帯、七區仲見世の兩側馬道の一・二丁目及辨天山の西南馬道三丁目)、そのうち第四區の觀音堂裏の飄池池附近は庭園風に出来てゐるので好散策地をなし、その西と南とは興行物の指定地で活動寫眞その他興行物・飲食店が軒を並べ、市内隨一の民衆的娛樂境をなし、所謂第六區の賑ひを呈してゐる。

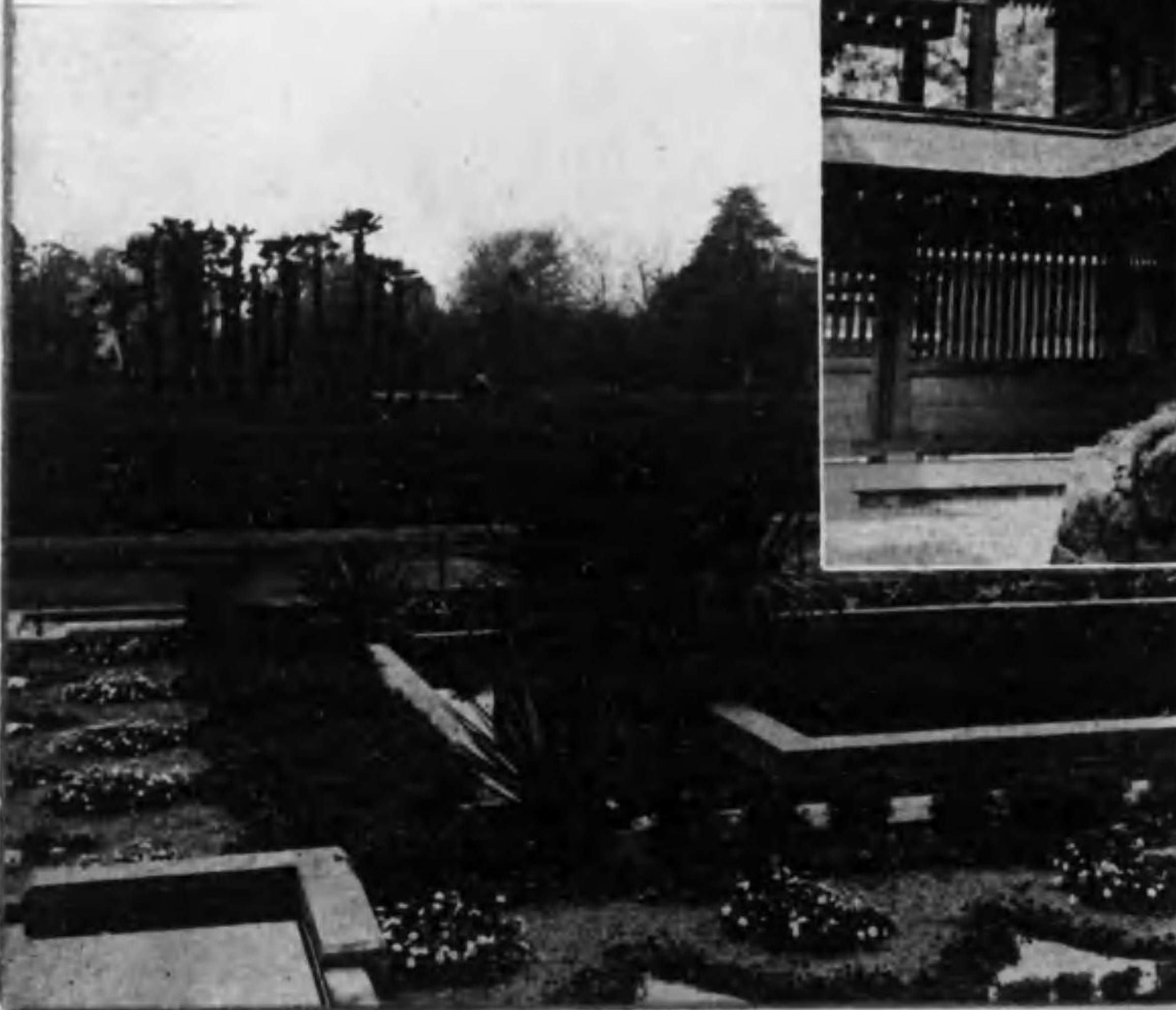
淺草は銀座・新宿と共に市内三大盛場の一となつてゐるが、銀座のや、取り澄したる威あるの對して淺草は誰にも親しみ易く大衆的と云ふ點に特徴を有してゐるのである。淺草寺の門前町として鎌倉時代に早くも相當の賑を呈してゐた様であるが、江戸時代に入り觀音の信仰流行し参詣者群をなすに至り、大いに發達し、それに吉原が日本橋から此處の田圃に移され又天保の改革以後、木挽町・堀町・登屋町にあつた芝居小屋が猿若町に移つたので芝居置立し、それ等が相よつて娛樂の中心地として繁榮し、謂はゆる奥山氣分を醸成するに至つたものである。江戸時代には神事舞太夫の田村八太夫、獨樂越しの松井源水、唇合技きの長井兵助、講釋師の深井志道軒、楊枝店の柳やおふち、水茶屋の積屋お六、紅粉、伊賀藏兄弟などが人氣の中心をなし、淺草の發展に大いに貢献したと傳へられてゐる。明治以後觀音堂を中心としてその周圍は公園となり益々盛大に向ひ、雷門(今は名のみにて現存せぬが、近く再建の計畫があると云ふ)から仁王門に至る間を「仲見世」と稱し、晝夜の別なく参詣人雜沓し、兩側は土産物の小商店が軒を並べてゐる。仁王門に接して右方に透子知らせの石標及び久米平内堂があり、仁王門に入り北進すれば數々の公孫樹に取まかれて淺草寺本堂があり、之に向つて右方には五重塔及經藏があり、その後方には俗に「三社大權現社」と稱せられて衆俗の信仰を集めてゐる淺草神社がある。本堂の東北隅に近きあたりに九代日圓十郎の「暫」の扮装をした銅像があり、また山東京傳の書案の碑が立つてゐる。奥山の地は第六區と共に一大興業區を形成し、文字通りに不夜城の賑ひを現出してゐる。

— 自二一頁至二四頁寫眞 —



社 神 國 塔

園 公 谷 比 日

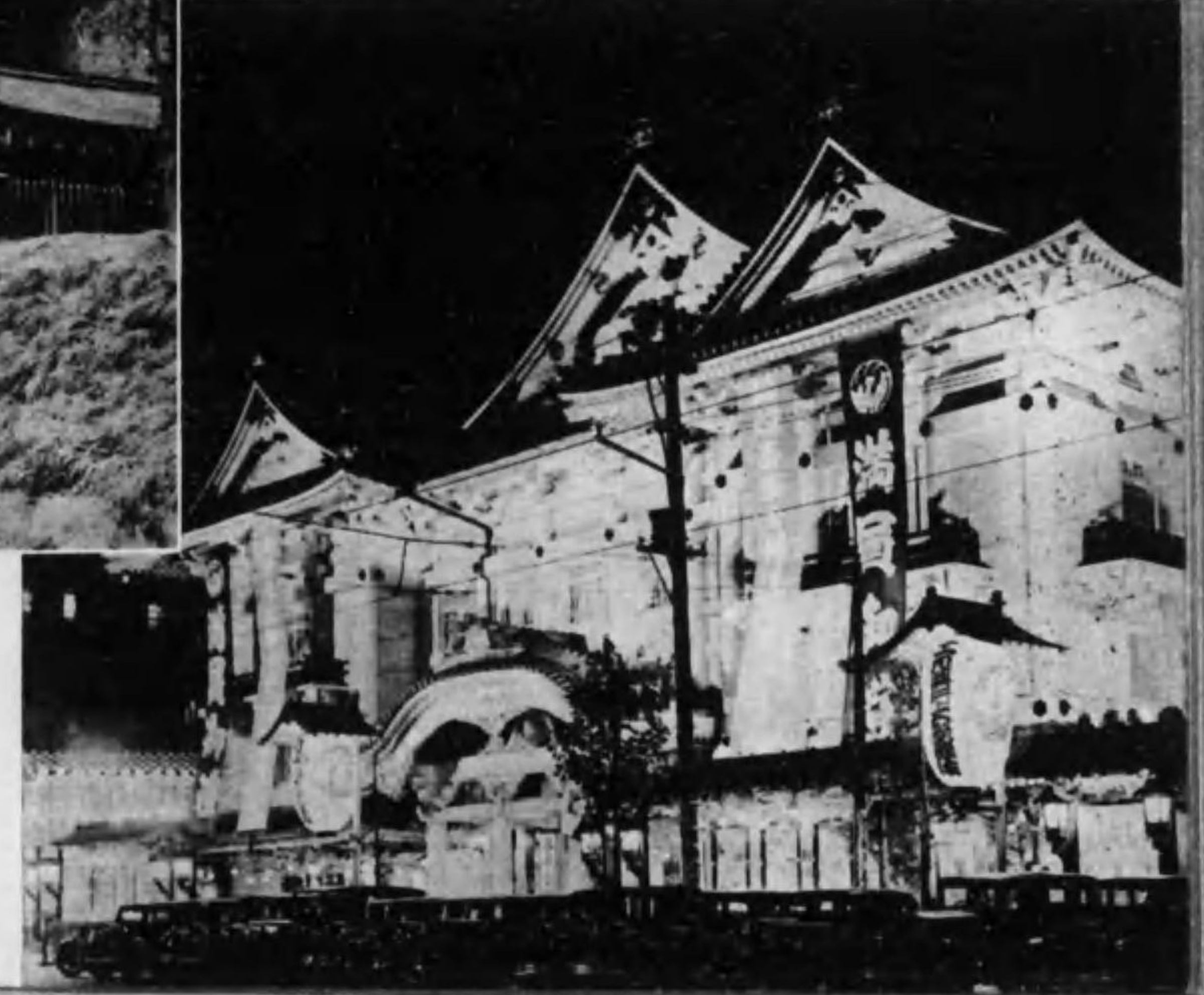


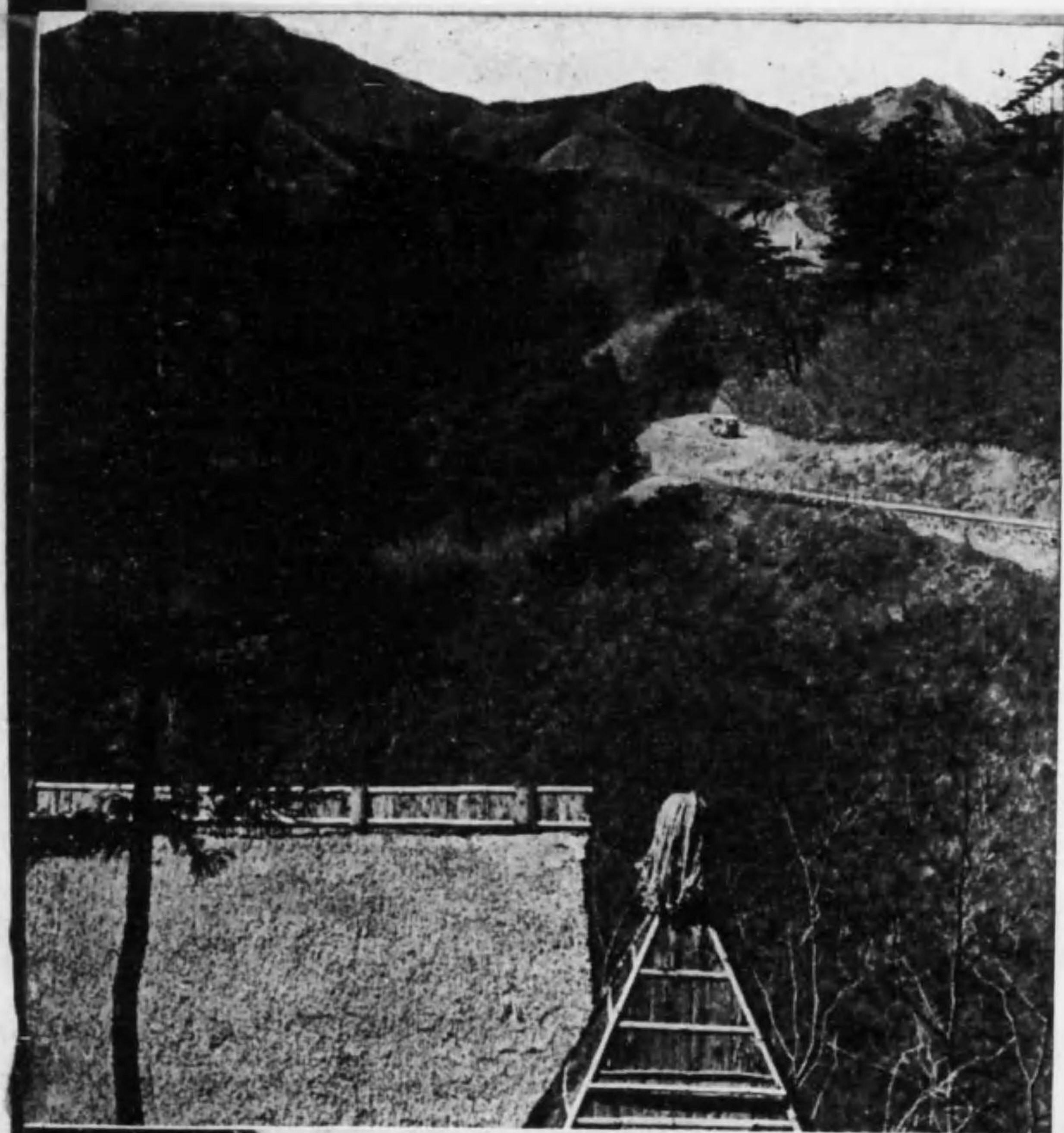
東  
郷  
神  
社  
↓



宮 神 治 明

座 伎 舞 歌





【愛宕山】芝居愛宕町にあり、市電西久保町下車。芝公園の近くにある小丘である。平地に降り東北西の三方が開けてるので眺望に富み、市内の一名所となつてゐる。いま愛宕公園となり、櫻樹多く、園内に愛宕神社がある。毎年六月廿四日に千日参りが行はれ、また七月廿六日の月待も賑ふ。尚社の急坂表版(俗に男坂とも云ふ)の石段は曲垣平九郎騎乗登降の傳説に名高い所である。

【飛鳥山公園】王子區王子町にあり、省線電車王子駅の西南に接す。市電は飛鳥山線終點下車。護ノ川を距て、王子神社に對する小丘で、江戸時代から櫻の名所として知られた所である。丘上東面は眺望良く、園内には佐久間兼山の「櫻賦」碑、勳農家船津傳次平の石碑等がある。「さきね」ともつけぬあすかの山さくらこそこの色やわすれし 爲久

【有栖川宮記念公園】麻布區盛岡町にあり、市電廣尾橋下車。此地はもと盛岡藩主南部氏の下屋敷であつたが、維新後他に拂下けられてあつたのを、有栖川宮威仁親王殿下が御買上になり、のち同宮家の御祭祀を攝がせられた高松宮殿下より東京市に御下賜になつたものである。園の東方は高峯、西方は低地、東北隅の溪谷には滾々と泉が湧き、それが低地に導かれて大池となり、往時の面影を留めた自然的林泉公園である。園内には東京郷土資料陳列館(東京及武蔵野に關する諸種の郷土資料を陳列してゐる)。梅林がありツツジも多く、兒童遊戯場もある。

【荒川堤の櫻】(指定の名勝)足立區小臺大門町にあり、東北線王子駅から東北約五科。隅田川の上流、荒川堤防工事竣工の際に舊北河村長が堤上に櫻の植樹を企て、千住町から埼玉縣境に至る約八科の間に里櫻の名品七十八種三千數百本を移植したもので、一「北河櫻」とも云はれる。その後荒川の改修工事のため取換はれた部分もあり、現在は沼田から埼玉縣境の鹿沼に至る三科半の地域に亘つてゐる。此處は里櫻の勝地として日本第一と云ふべく、その中に珍奇なものも多く、品種の異なるに從ひ花色花容に著しい差異がある。殊に花色は白・紅・紫・黄・緑と色彩を變化するので荒川の五色櫻とも云はれてゐる。

【上野恩賜公園】下谷區にあり省線上野又は愛宕驛、地下鐵上野、市電上野公園前、京成電車上野公園(終點)、博物館動物園前、寛永寺坂等に下車。池ノ端と車坂との低地に挟まれた半島狀の臺地で、その地域は舊東叡山寛永寺の境内を主としてゐる。もと宮内省の管轄の下に公園として開放されたのを、大正十三年一月、

今上天皇陛下御成婚記念として御下賜になつたもので、市内最大の公園である。園内には櫻樹多く(江戸時代から大衆的な行樂地として市民に最も親しまれた所で、陽春櫻花の頃の人は日に數萬を數へる程である)、帝室博物館・東京科學博物館・府立美術館・動物園・東京市自治會館・音樂學校・帝國圖書館・寛永寺・東照宮・徳川氏靈廟其他見るべきものが多い。

此地江戸時代には藤堂侯の邸宅(地名はその藩領伊賀上野に因むと云ふ)を始め津輕侯や堀田侯の邸があり、その一部櫻ヶ丘の邊には林道春の建てた先聖堂(元祿年間湯島に移す)及林家の邸宅があつた所である。其後幕府の黒衣宰相と云はれた南光坊天海(慧眼大師)、家康の意を受けてこの丘上に東叡山寛永寺の大伽藍を營むに當り、寛永二年二月工を起し同四年九月竣工す。前記諸侯の邸地をそっくり他に移轉せしめた。今「竹ノ臺」の地名の發する所は慧眼大師が唐より持参の竹を植ゑた寛永寺中堂の中庭であると云ふ。また公園前の上野「黒門町」の名は、往昔此地に黒檀の寛永寺總門(いま彰義隊士の墓のある圓通寺に殘存し上野戰爭の激戦を物語つてゐる冠木門)があつたので、この邊を俗に黒門口と稱したのに因ると云ふ。明治元年の上野戰爭に七堂・三十二宇・子院三十六坊の大部分を焼失し、今は僅かに清水堂・東照宮・鐘樓・五重塔・徳川家霊廟・輪王寺木坊表門・兩大師等が殘つてゐるのみである。南方上野廣小路から緩かな坂を上れば一條の大路園内に通じ、その右方石段の上(山王臺と云ふ)の櫻ヶ丘(日枝神社のあつた所)に西郷隆盛の銅像(明治三十年建立)の背後に彰義隊の墓(彰義隊の戦死者を火葬した所で遺骨は三輪の圓通寺に葬らる。清水堂(天海僧上が京都の清水堂に擬して遺つたもので、元祿時代現地に移すと云ふ)があり、大路の左には樹木の間に不忍池(園の西南部に當り、往時淺草方面に續いた沼地の一部で、蘆葉川の水を承け、周圍約二科、中島に辨財天を祀り、池中の蓮は名所の一になつてゐる。池上には貸ボートの設備がある)を見下し、また五條天神・花園神社精養軒・小松宮彰仁親王銅像(東照宮石鳥居の右にあり明治四十四年の建立)などを見、銅像の後方には明治十二年來朝して皇室の御優遇を蒙つた米國前大統領グラント將軍夫妻記念植樹の福柏がある。大路の櫻樹の並木の間に東北に竹の臺に至れば帝室博物館がある。竹ノ臺の右には自治會館(市の諸施設を一般に知らせる爲の常設展覽會場)、後雲院、東京科學博物館・帝國學士院、兩大師があり、左には東京府美術館があり、その先には右方に音樂學校・帝國圖書館・寛永寺・徳川家霊廟などがある。

り、左方には美術学校（校門内の権の巨木は日蓮轉圓五米餘あり、指定の天然記念物となつてゐる）、動物園（寛永寺塔頭松院の舊地を占む）、東照宮（寛永三年藤堂高虎が信天海と謀り、一般來拜者のために營んだもの）がある。向「花の雲錦は上野か淺草か」と稱する芭蕉の歌んだ名高い鐘は、今も尚修理保存されて公園の入口にある。

【歌舞伎座】京橋區本町四丁目にあり、市電三原橋下車。我が「國劇」の王座たる大劇場で、日本觀光の外人は、一度は必ず足を運ぶと云ふ國際の名所である。現在の建物は、大正十四年の竣工になり、桃山式日本宮殿風の典雅な鐵筋コンクリート造である。尚前向ひの近くに同じく松竹の經營に係るスパニッシュ式近代建築の「東京劇場」がある。

【蒲田梅屋敷】（指定史蹟）蒲田區蒲田町にあり、省線蒲田駅からバス五錢。京濱電車梅屋敷下車約二〇〇米。元祿の頃近江草津の是齋と云ふ人が此の地に和散賣の店を開いたのに始まり、のち庭内に梅樹を植えて梅木堂と稱し、梅の名所となつたのである。異くも、明治天皇御行幸遊ばされ御小憩の上御觀梅し給へる聖蹟で、瓦葺平屋建の玉座の建物が残つてゐる。また本屋敷は維新の元勳三條・岩倉・木戸・大久保・伊藤・井上等諸國の志士相會して國事を謀せし所として知られてゐる。

【清澄庭園】深川區清澄町三丁目にあり、市電清澄町又は深川區役所前下車。往時久世大和守の下屋敷であつたが、のち岩崎彌太郎氏の別邸となり、面目を一新して市内有数の名園となつた處である。大正十三年六月東京市に寄附せられ、毎日午前八時から午後四時迄有料で（入園料五錢）公開されてゐる。園内泉池・築山の配置良し、ツツジも多い。また市に下賜された大正天皇の御賜品は、當園内に移されて大正記念館となつてゐる。

【銀座】省線電車有樂町又は新橋駅下車、地下鐵銀座、市電銀座二丁目・同四丁目・同七丁目等に下車。東京の一大盛り場であり、その名は餘りにも有名である。此處は京橋區の目抜の場所であり、高級流行品・化粧品・舶來品販賣等の店舗多く、松屋・三越支店・松坂屋支店・伊東屋等の大百貨店、著名なる大商店軒を連ね、飾窓華やかに、街衢も清潔快適であつて散歩によく、晝夜を分かたず往來する人々の流れ絶えず、所謂銀座ブライ（こ）を漫歩することを俗に銀座ブライと云ふ。の波は夜半に至る迄限り

目道場・庭球場がある。開園は毎日午前九時から午後五時迄。  
【清水谷公園と辨慶橋】鶴町區尾井町にあり、市電赤坂見附下車。辨慶橋は明治二十年京都市の五條橋を模して作り、牛若丸の故事に因んで名付けられたもので、附近景勝の地を占め、市内名勝の一に數へられてゐる。欄干には淺草橋・筋違橋・神田橋・一ツ橋等から撤去したものも其備用ゐられてゐる。橋を渡れば右方に清水谷公園がある。

【新 宿】澁谷區角筈、市電・省線・京王電車新宿下車。中央の銀座に次ぐ盛り場で、一に山手銀座などと呼ばれ、銀座・淺草とはまた異つた盛り場情緒を見せてゐる。日本橋・丸の内・銀座一帯を第一の都心とせば、此處は新都市區域西部の中心地で、而もその位置が大東京の殆んど中央に位してゐるので、今後の素晴らしい發展が期待されてゐる。新宿はまた交通上の一大中心地をなし、省線山手・中央兩線が交叉し、新宿驛は全國驛中一、二を争ふ乗降客を以て著名であり、市内各方面からのバス・市電等此處に集り小田原急行電鐵・京王電車・西武電車が放射狀に出てゐる。

この地も昔は甲州街道と青梅街道との分岐點たる一宿場に通ぎ、元祿十一年新橋を立て、内藤氏の御邸があつたに因んで内藤新宿と呼ばれたに初まる。大正の大震災後地理的地位に恵まれた爲急に發展して今日及び、百貨店（伊勢丹及び三越支店）大商店・映画館・劇場・カフェー・パル等續々と建てられ山手第一の盛り場を形成してゐる。

【震災記念堂】本所區横綱町にあり、市電横綱町下車。大正十二年の大震災の折約三萬五千の人々が犠牲者被服隊で無惨にも横死したので、之等生靈の冥福を祈り且つ震災の慘過を永遠に銘記せしめるため、數十萬人の資金により約百萬圓の工費を以て被服隊に建設せられ、昭和三年竣工、同五年竣工したものである。維新廟堂コンクリート造りで、堂宇と三重塔とから成り、堂内には大震災遺難死者五萬八千人の遺骨と其人々の銘々簿とが木

なく續くのである。従つて日本の近代流行は一に此街から出發するとも云はれてゐる。また表通り・横丁には大小のカフェー・喫茶店等櫛比して盛り場の雰囲気溢し、また夕方から鋪道に屋臺を連ねる夜店も、「昔戀しい銀座の柳」と俗語に唄はれた柳の並木も銀座の情緒をつくつてゐる。

【國技館】本所區東兩國二丁目にあり、市電東兩國二丁目下車。春夏兩場所の大相撲の舉行される大運動場である。此の地は舊幕時代からの相撲場であるが、大相撲以外は季節により納涼會・菊花大會等が催される。

【後樂園】（指定史蹟・名勝）小石川區小石川町にあり、市電小石川橋、省線水道橋下車。もと水戸藩江戸中屋敷の庭園で、頼房・光國父子が名匠徳大寺左兵衛に命じて造營せしめた天下の名園である。地味は二萬餘坪に亘り、園内には神田上水を導いて流を通じ、池を懸け池水を流し、また島を造り山を設け、亭榭を築き、江戸時代初期に於ける庭園として現存するもの、隨一である。本園は維新後陸軍造兵廠東京工廠の構内となつて居り、久しく當局の許可を得たもの、み特に觀覽を許され、また外國貴賓の觀覽するものも多く、名聲海外に聞えてゐたが大正十二年の大震災に遭ひ、一時全く閉園されてゐた。しかしその後漸次復興し、池泉流水の美は舊態を保ち、目下東京市管理の下に一般に有料（五錢）で開園されてゐる。

【芝公園】芝區芝公園の南方にあり、市電増上寺前、省線電車清澄町下車。こゝは三輪山増上寺境内の一部を割いて明治六年上野・淺草等と共に太政官布告により公園となしたものである。園内を南北に通ずる大路があり（市内電車通車）、その西に増上寺、徳川家重廟、丸山五重塔、金院地、陸上競技場、テニスコート等があり、道路の東方には舊寺家・區役所・協同會館、市設プール等がある。地勢一般に起伏に富み、老樹鬱蒼と茂り自然の風致を保つ良公園である。園内にはまた丸山古墳（規模壯大な圓形墳及圓墳多數あり、各種の出土品が多い）、丸山貝塚等の史蹟や伊能忠敬碑・大隈重信及び板垣退助の銅像等があり、また櫻樹・ツツジも多い。

【芝公園】芝區芝公園の南方にあり、市電増上寺前、省線電車清澄町下車。こゝは三輪山増上寺境内の一部を割いて明治六年上野・淺草等と共に太政官布告により公園となしたものである。園内を南北に通ずる大路があり（市内電車通車）、その西に増上寺、徳川家重廟、丸山五重塔、金院地、陸上競技場、テニスコート等があり、道路の東方には舊寺家・區役所・協同會館、市設プール等がある。地勢一般に起伏に富み、老樹鬱蒼と茂り自然の風致を保つ良公園である。園内にはまた丸山古墳（規模壯大な圓形墳及圓墳多數あり、各種の出土品が多い）、丸山貝塚等の史蹟や伊能忠敬碑・大隈重信及び板垣退助の銅像等があり、また櫻樹・ツツジも多い。

【芝公園】芝區芝公園の南方にあり、市電増上寺前、省線電車清澄町下車。こゝは三輪山増上寺境内の一部を割いて明治六年上野・淺草等と共に太政官布告により公園となしたものである。園内を南北に通ずる大路があり（市内電車通車）、その西に増上寺、徳川家重廟、丸山五重塔、金院地、陸上競技場、テニスコート等があり、道路の東方には舊寺家・區役所・協同會館、市設プール等がある。地勢一般に起伏に富み、老樹鬱蒼と茂り自然の風致を保つ良公園である。園内にはまた丸山古墳（規模壯大な圓形墳及圓墳多數あり、各種の出土品が多い）、丸山貝塚等の史蹟や伊能忠敬碑・大隈重信及び板垣退助の銅像等があり、また櫻樹・ツツジも多い。

【洗足池】大森區南千束町にあり池上電車洗足池驛前。南北約九〇米、東西約三〇〇米の池であるが、池畔には松・櫻・梅など繁茂して市内に見るの園遊境で内務大臣指定の風致區となつてゐる。池畔に日蓮聖徒掛松・清明文庫・南無宗記念碑・勝海舟の墓・立正大師銅像等があり、また池上には貸ボートもあつて一日の消遣に適してゐる。

【多摩川園】大森區田園調布二丁目にあり、東横・日都電車同園前下車。東横電鐵會社經營の遊園地で、園内には大浴場及諸種の運動機關が備つてゐて、家族連れの日一の消遣によい處である。入園料三〇錢。

【帝國講事堂】鶴町區永田町二丁目にあり、市電櫻田門下車。議院はもと同區内幸町にあつたが、霞ヶ關臺地上の現地に改築移轉したのは昭和十一年十一月で、第七十議會から使用されたのである。本館は近世式様式に依る世界有数の大建築で、東京の新名所の一に加へらるゝに至つた處であり、議事堂正面玄関内に憲政の恩人伊藤・大隈・板垣三氏の銅像がある。

【東京株式取引所】日本橋區兜町にあり、市電兜町下車。明治十一年の創立で、全國株式取引所中最も古い歴史を有するものである。取引高は創設當初は僅か二千數百萬圓に過ぎなかつたが、逐年増加して近年の株式・國債取引高は總計百數十億圓の巨額に達してゐると云ふ。建物は「兜町」の代名詞で知られた株屋街の中心地、即ち銀座の南詰にあり、壯麗豪華なもので、世界屈指の大取引所と云はれてゐる。

【東京帝國大學】本郷區本郷土町にあり、市電赤大門前・赤門前・農學部前・區役所前等下車。法・醫・工・文・理・農・經濟の七學部に分れ、醫學院・史料編纂所・臨海實驗所・植物園・演習林・農場等を有し、別に傳染病研究所・航空研究所・東京天文臺・地震研究所・圖書館等が附設されてゐる。

此の地はもと加賀前田侯邸に支封大聖寺・富山の二藩邸の別荘で、有名な赤門は、前田邸の表門であつたと云ふ。此の門は文政十年徳川十一代將軍家齊の女官が同家(高主齊泰)に嫁した際建造した御守殿門で、左右に二つの赤門と兩袖に唐風造りの番所を置き、朱欄の爲に赤門と呼ばれてゐる。御守殿門は十萬石以上の大名でなければ許されぬ格式のもので、一度焼失すれば再建を許されなかつたため珍重されたもので、現在國寶に指定され、東大の異稱に用ひられてゐる。

【東郷庭園】豊町區三番町、市電一口坂下車。舊東郷元帥邸を昭和十二年十一月東郷元帥記念會から建物と共に市に寄附されたもので、名譽監督の遺香を慕ふ人々の曳杖が多い。

【豊島園】板橋區練馬向山町、練馬春日町にあり武蔵野電車豊島園(池袋から電車十四分、十四分)。武蔵野の大自然に練馬城址(豊島左近大夫景村の居城で、凡そ四百五十年前の文明九年太田道灌に攻められたと云ふ)を取り入れた大遊園地で、園内には各種の運動施設の外、大食堂・貸室・野外劇場等があり、子供連れの遊遊又は小團體の運動會等に好適の所である。入園料大人三〇銭(電車往復券付四十五銭)、小人十五銭(同上二十三銭)。

【日比谷公園】豊町區日比谷。市電日比谷(又又點)又は内幸町下車。麴町區の東南隅、市の略中央部に位し、宮城外苑とお濠を距て、南隣し東京驛及有樂町・新橋驛等に近く、東京市公園中最良の位置を占めてゐる。即ち上野・芝・井ノ頭及び隅田の諸公園に比し稍遜色あるも、最も位置的に恵まれた第一流の公園で、公園としての利用價値も亦第一位にあるのである。此處は我國洋風公園としての最初(明治三十六年石黒忠直氏を委員長とし、本多静六氏その他の設計による)のものであり、また各種の國民的集會が行はれる公園として有名である。

【六義園】兩國橋は萬治二年革命により隅田川に架けられた最初の橋で、日本橋區新御町と本所區東兩國一丁目との間を連絡し、日本橋側が武蔵國、本所側がもと下總國であつた爲兩國と名づけられ、これから轉じて橋の兩側を兩國と汎稱される様になつた。江戸時代此橋は見世物・納涼・川開き(享保十八年八代將軍吉宗の時水神祭を行つたのがその初めとされ、現在は七月第三土曜日に於て午後三時頃から九時迄無数の打上・仕掛花火を打ち上げ、夏の年中行事の豪華版となつてゐる)等によつて賑つたところであり、橋東、即ち本所區東兩國には「國技館」がある。

〔主なる劇場・映畫館・寄席〕

劇種	所在地	(市電下車地)
▲劇場	京橋區木挽町三丁目	(三原橋)
歌舞伎座	京橋區築地三丁目	(築地)
東京劇場	京橋區木挽町三丁目	(三原橋)
新橋演舞場	京橋區築地三丁目	(三原橋)
明治座	日本橋區酒町三丁目	(久松町)
東京寶塚劇場	豊町區有樂町三丁目	(日比谷)
(東京レヴュー)	豊町區有樂町三丁目	(日比谷)
築地小劇場	京橋區築地三丁目	(築地三丁目)
浅草松竹座	浅草區公園第六區	(田原町)
新橋座	浅草區角管二丁目	(角管)
(ムーラン・ルージュ)	浅草區角管二丁目	(角管)
國際劇場	浅草區芝崎町	(田原町)
(松竹レヴュー)	浅草區芝崎町	(田原町)
江東劇場	本所區江東橋四丁目	(錦糸堀)
有樂座	豊町區有樂町	(日比谷)
公園劇場	浅草區公園第六區	(田原町)
常盤座	同	(同上)
▲映畫館	豊町區有樂町三丁目	(敷寄屋橋)
邦樂座	同	(日比谷)
日比谷映畫劇場	同	(日比谷)
武蔵野館	浅草區角管三丁目	(角管)
大勝館	浅草區公園第六區	(田原町)
松竹映畫劇場	豊町區有樂町三丁目	(敷寄屋橋)
日本劇場	四谷區新宿三丁目	(新宿車庫前)
東横映畫劇場	豊谷區道玄坂	(豊谷)
新宿第一劇場	浅草區角管三丁目	(新橋三丁目)
富士館	浅草區公園第六區	(田原町)
帝國館	同	(同上)
電氣館	同	(同上)
神田日活館	神田區表猿樂町	(猿河臺)
新宿東寶劇場	四谷區新宿三丁目	(新宿三丁目)
新宿松竹館	同	(同上)
大東京	同	(同上)
銀座映畫劇場	京橋區木挽町三丁目	(三原橋)
銀座劇場	京橋區銀座三丁目	(銀座三丁目)
▲ニュース映畫館	同	(同上)
日劇地下第一映畫劇場	豊町區有樂町三丁目	(敷寄屋橋)
兒童文化映畫劇場	同	(同上)
下(東日會館地)	同	(同上)
金春ニュース映畫劇場	京橋區銀座西三丁目	(銀座西三丁目)
▲寄席	豊町區有樂町三丁目	(日比谷)
東寶小劇場	同	(日比谷)
喜上喜	同	(日比谷)
立花演藝場	同	(日比谷)
花月	同	(日比谷)
末廣	同	(日比谷)
新宿末廣亭	同	(日比谷)
鈴木演藝場	同	(日比谷)
十番俱樂部	同	(日比谷)
神樂坂演藝場	同	(日比谷)
壽々々	同	(日比谷)

場等のある所謂「有樂街」となつてゐる。

【丸の内】丸の内とは豊町區の内、東京驛を中心とする附近一帯を云ふ(本來は御園内と稱し、宮城の東面をなす外郭で、以前は今よりも遙に廣く、今の大手町・日比谷等をも含んでゐた)。東京のビジネスセンター、即ち丸の内ビル街をなし、歐風洋式の建築物が群立し、その近代的都市景観は道一つ隔て全く古典的である宮城外苑の美観と美しい調和を保ち、世界稀に見る都市美を現出してゐる。即ち有名な丸の内ビルディングを始め、数多の官廳・會社や商工會議所等の豪華な建築物が建ち並んで、所謂東京の顔と稱せられる丸の内景観を呈出し、朝夕のラッシュアワー(通勤時)は頗る雑沓を極めるも、日中は比較的往來緩慢であつて清潔なる空氣を湛え、夜は全くの閑寂境と化するのである。

【向島百花園】(指定名勝)向島區向島町にあり、市電吾妻橋下車、バスの便がある。いま江戸時代の花園(文化年間佐原菊池の開く處と云ふ)として懇切の小高園と共に著名な所であり、一に花屋敷の稱もある。園内多数の野草を栽植し、殊に秋の七草その他秋季花草の美観を以て知られ、良く萬葉の景観を葆ち、且開園當時の家庭の存するものがある。園内には酒井抱一・龜田鶴齋・大窪詩佛・芭蕉その他古今諸名家の碑もある。園内には酒井抱一・龜田鶴齋・大窪詩佛・芭蕉その他古今諸名家の碑もある。

【湯島聖堂】(指定史蹟)本郷區湯島二丁目にあり、市電松住町又は御茶の水下車。孔子廟に淵・會・思・五聖の坐像を安置せる廟で、もと忍ヶ岡にあつたが上野中堂の失火に類焼、徳川綱吉が現地に移し(元禄年中)、大成殿と稱した。その後、元禄・安永・天明と三度の火災に焼失したが、不思議にも五聖の坐像は災を免れて来た。然るに大正の大震災には寛永以来の由緒ある入徳門のみを残して全焼したので、舊規によつて昭和十年四月完成したので今見る聖堂である。殿内に安置する青銅製孔子像一軀は、皇室より特に斯文會に御下賜になつたもので、朱漆水の將來せる三體の孔子像の一であるといふ。

【横川省三記念公園】麻布區東町二丁目にあり、市電今井町又は福吉町に下車。明治三十七八年戦役の際、特別任務を帯びて滿洲の野に活躍中、不幸露軍に捕はられ、哈爾濱郊外の嶺と散つた横川省三氏を記念し、岡氏の舊寓地に設けられた公園である。

年大和郡山藩主御出羽守吉保の築造に係る名園で、岩崎男爵家から東京市に寄附せられ、昭和十三年十月有料(五銭)公園として一般に開園されたものである。本園は所謂回遊式築山山水庭で、大泉水を繞る名勝八十八境・全國布置の妙は和歌の六義に倣われ、吉保が包蔵する文學趣味を遺憾なく活現せるものとして著名である。

【蓮花恒春園】世田谷區粕谷町にあり、京王電車蓮花公園前下車。明治・大正の文壇に幾多の名筆を残して世を去つた文豪徳富蘆花氏の舊邸を、氏の十周忌に際し市に寄附されたので、これを文豪記念園として開園したものである。



全なる博物館・動物園・植物園一覽表

名 稱	交 所	入 場 料	開 館 時 限	備 考
帝室博物館	下谷區上野恩賜公園内 市電・バス 上野公園前 省線 上野又ハ有谷驛	大人一〇錢 小人一五錢 特別一〇錢 五〇錢	一月五日—十二月廿五日 後四時又ハ九時ヨリ マデ	宮内省管理、明治十五年創設。本館ト表裏館トニ 分レ、主ニ東洋ノ古美術・工藝品・考古資料・歴 史遺物等ガ陳列サレテアル。昭和十二年完 成、六年ノ歳月、七百萬ノ費 ヲ投ジテ我國屈指ノ建築 ヲ成シ、明治卅三年 （表裏館）明治卅三年 京市民ノ建造奉獻セルモノデア ル
明治神宮寶物殿	澁谷區代々木、明治神宮境内 市電 明治神宮前 省線 代々木・原宿・千駄ヶ谷	大人一〇錢 小人一五錢	四月一日—九月末日 午前八時カラ午後五時迄 十月一日—三月末日 午前九時カラ午後四時迄 午前九時カラ午後四時迄 但シ十一月—二月ハ 午後三時閉館	明治神宮ノ西北方。校舎式ノ鐵筋コンクリート建。 明治天皇及昭憲皇太后ノ御遺物ヲ陳列一般ノ拜觀 ヲ許シテアル
聖徳記念繪畫館	四谷區大番町、明治神宮外苑内 市電 信濃町・榎田原・青山三丁目 省線 信濃町・千駄ヶ谷驛	大人一〇錢 小人一五錢	午前九時カラ午後四時迄 但シ十一月—二月ハ 午後三時閉館	明治天皇昭憲皇太后ノ御遺物ヲ、ヘル記念館 デ、御一代ヲ表ハス繪畫八〇枚ヲ奉揚シテアル
憲法記念館	赤坂區青山榎田原町 市電 榎田原町 省線 信濃町	無 料	午前九時カラ 午後四時迄	明治天皇昭憲皇太后ノ御遺物ヲ、ヘル記念館 デ、御一代ヲ表ハス繪畫八〇枚ヲ奉揚シテアル
東京科學博物館	下谷區上野恩賜公園内 市電・バス 上野公園前 省線 上野又ハ有谷驛	大人一〇錢 小人一五錢	九時頃カラ四時半乃至五時 半迄	自然科學・應用工學ノ知識ヲ一般ニ普及スル爲建 テラレタモノデア、各種實驗裝置ヲ研究室・圖書室 等ガアル
遊就館・國防館	麹町區九段、靖國神社境内 市電 九段三丁目・九段坂上	大人一〇錢 小人一五錢	八時半又ハ九時カラ 四時半乃至六時迄	遊就館ハ明治十二年ノ創建デ、武器・武具及ビソ レニ關スル文献ヲ陳列、公開シテキル。國防館ハ本 館ニ隣接シ、昭和九年建立、最新科學兵器ソノ他ヲ 陳列公開シテ國防思想ノ涵養ニ努メテアル
海軍館	澁谷區原宿三ノ二六六ノ二 市電・バス 海軍館前 省線 原宿驛	大人一〇錢 小人一五錢	夏期午前九時カラ午後五時 冬期午前九時カラ午後四時迄 （休館）十二月廿九日— 一月三日	昭和十二年五月新設サレタモノデア、各種ノ模型及 海軍ノ天文ニ關スル參考資料ヲ陳列シテ海軍思想 ノ普及ニ努メテアル
東京市復興記念館	本所區横綱町、震災記念堂内 市電 石原町	大人一〇錢 小人一五錢	八時又ハ九時カラ 後五時乃至六時迄 （毎月末休館）	大正十二年ノ大震災ヲ永遠ニ銘記スルタメ物品・ 繪畫・寫眞・統計・帝都復興事業資料等ヲ陳列シ テアル

名 稱	交 所	入 場 料	開 館 時 限	備 考
東京郷土資料陳列館	麻布區盛岡町有栖川宮記念公園内 市電 盛岡驛	無 料	年中無休 午前九時カラ午後五時迄	東京市ノ沿革ト現況ニ關スル圖表・統計・資料ノ 通俗的ナモノヲ陳列、ソノ他郷土玩具ノ標本モア ル
市政展覽館	麹町區日比谷公園東京市政館内 市電・バス 内幸町	無 料	夏期午前八時カラ午後五時 冬期午前九時カラ午後五時 （休館）年末年始十日間及 毎月第二月曜日（但シ當日 祝祭日ナラハ翌日）	東京市政ニ關スル資料ヲ陳列、以テ自治精神・公 民思想ノ涵養ニ資シテアル
東京市電氣研究所	麹町區有樂町二丁目 市電 數寄屋驛 省線 有樂町驛	無 料	一月六日—十二月廿六日 午前九時カラ午後五時	電氣ニ關スル知識ヲ一般ニ認識セシムルタメ、各 種ノ機械・材料・模型・圖表・寫眞・繪畫等ヲ陳 列シテアル
東京市上野恩賜公園	下谷區上野恩賜公園内 市電・バス 上野公園前・東照宮下 省線 上野・有谷驛	大人一〇錢 小人一五錢	八時又ハ九時カラ 四時乃至六時迄	明治十五年ノ開園。皇太子殿下御成婚記念ニ東京 市ハ御下賜。鳥獸魚類等三百餘種ヲ飼育シテアル
織造博物館	神田區須田町（萬世橋驛内） 市電・バス 須田町 省線 萬世橋驛	無 料	前九時カラ後五時迄 十二月廿九日—一月三日、 及毎月曜休館	織造知識普及ノタメ圖表・寫眞・車輛・信號機等 ノ實物模型約二萬點ヲ蒐ム。毎土曜ニ映畫公開。 十月十四日カラ一週間特別展覽會ガアル
通信博物館	麹町區富士見町二ノ三 市電 牛込見付 省線 飯田橋驛南口下車	無 料	前九時カラ後三時迄 （七月二十一日—八月卅一 日ハ八時—正午） （休館）十二月廿五日—一月 五月及祝祭日・毎月曜	我國通信事業ノ沿革ヲ物語ル資料・内外參考品・ ソノ他ヲ陳列公開シテアル。四月廿日ノ記念日ハ 特別陳列及催物アリ
警察博物館	世田谷區祖師谷二ノ四二七 小田急 祖師谷大藏下車	大人二〇錢 小人一〇錢	前九時カラ後四時迄 （但シ毎月末休館）	警察思想普及ノタメ、歴史的・近代的・各警察團 係資料ヲ蒐ム
東京帝大理學部 附屬植物園	小石川區白山御殿町 市電 指ヶ谷町（白山下）	普通一〇錢 特別（温室） 五錢	前七時又ハ八時カラ後四時 乃至六時迄	昔ノ白山御殿ニアツタ、江戸幕府ノ藥草園デア ル。樹木類七百餘種、草本類千餘種アリ、温室（日 曬）・觀日・土曜正午ヨリ開キ、熱帯植物二千種 アリ）及ビ林泉式庭園アリ
演劇博物館	澁谷區戸塚町、早稻田大學構内 市電 早稻田驛 バス 早大正門前	無 料	前九時カラ後四時迄 （休館）八月及月曜・祭日 翌日ハ	故坪内逍遙博士ノ文藝記念ノ建築デ、シエクスビ ヤ時代ノフオーチエン座ヲ模ス。ト云フ。内外演 劇ニ關スル資料・遺物等ノ外、演劇關係ノ圖 書モアル

名 稱	交 所	通 在 順 路 地	入 場 料	開 館 時 限	備 考
大倉集古館	赤坂區藤町三 市電 西久保巴町・虎ノ門・溜池		無 料	夏期前九時—後四時 冬期前九時—後四時 (休)日 祝祭日及十二月廿六日カラ一月五日迄	明治維新及清朝末ノ日支制度變革期ニ日支文物ノ歐米流出ヲ防ギ故大倉翁ノ個人蒐集ニヨル各種貴重古美術・考古品等多數アリ
特許局陳列室	麹町區三年町一、特許局廳舎内 市電 溜池・虎ノ門		無 料	前八時又ハ九時カラ後四時迄 (但毎土曜及暑休期間中ハ正午迄)(休)日 祝祭日及十二月廿五日—一月七日	商工業所有權ニ關スル物品・發明品・實用新案・意匠商標等ノ見本體形等ヲ陳列公開シテキル
滿洲資源陳列所	赤坂區葵町、瀧ビル内 市電 虎ノ門		無 料	前九時—四時 (休)日 祝祭日	滿洲資源ノ基礎的知識ヲ一般ニ會得セシムルタメ各種ノ資料・産業・交通・工業・文化等資料文獻ヲ陳列公開シテキル
日本民藝館	日黒區駒場町八六一 市電 駒場		普通三〇錢 學生一五錢	前九時—後四時 (休)日 祝祭日、及六月十六日—卅一日十二月廿六日—一月五日	實用工藝品ヲ陳列シテキル
衛生博物館	神田區三崎町一ノ二ノ四 市電 三崎町 省線 水道橋驛		無 料	前九時半カラ(小學生)十一時—一時・二時半・四時半・六時・七時半ニ實驗アリ	主トシテ結核豫防ニ關スル標本・統計ノ陳列
東日天文館	麹町區有樂町東日會館内 市電 有樂町驛・日比谷省線		大人五〇錢 小人二五錢		プラネタリウムニヨツテ、天體ヲ九天井ニ映出シ天文學ノ一般的知識ヲ普及シテキル

京 債 方 面

川崎大師(新義真言宗智山派) 川崎市内大師河原にあり、川崎驛の東約三軒七、バス二〇錢又は京濱電車大師線終點下車。金剛山金乘院と號し、平間寺と呼ぶのが本名であるが、弘法大師の像を安置

する處から俗に川崎大師と呼ばれてゐる。高尾山藥王院・成田山新勝寺と共に當派中の三山と稱せられ關東地方屈指の名刹で參詣者の絶えることがない。  
大治年中(八百十數年前) 源義家の臣、平間兼盛・兼兼父子が關東に請せられ、此の附近の海岸で漁を営んでゐる時、海中から弘法大師の木像を得之を安置したのに創ると云はれ、此の大師の尊像は養和四十二歳の厄年に示現せられたと云ふ。保延年中、鳥羽法皇の御妃美福門院本寺に祈願せられたり皇子誕生あらせられたので、本寺を勸願寺に列し、化粧の紅にて書いた縁起を賜つた。今に傳へる紅縁起が之であると云ふ。江戸時

代明和・安永の頃から次第に隆昌に輝き、寛永八年將軍家齊參詣してから當山の靈驗四方に聞え、厄除祈願に參詣者の絶えることがない。毎月二十日、二十一日、廿三日、殊に三月三十一日の御影供修行と稱する日には非常な雜沓を呈する。

【久地梅林】 市内久地町の川邊氏宅地にあり、南武電車久地梅林驛下車、東北へ七〇〇米、又は玉川電車高津驛下車約一軒。元祿年間からの老樹其他約四百株あり、東京附近に於ける代表的な梅の名所となつてゐる。

【矢野口辨天洞窟】 南多摩郡稻城村矢野口にあり、南武電車矢野口驛下車南約一軒半。成光寺境内にある深さ約四五米の洞窟で、内部に辨財天女を祀り弘法大師・大黒天・金胎兩大日如来を安置して居る。壁面に浮彫した大蛇三體は、往昔この山に棲む大蛇三體が辨財天に化して里人小山某の夢に現はれたので不思議に思ひ、洞内を探した處辨財天の像を發見したと云ふ口碑によつて、明治初年頃彫刻されたものと云ふ。

【多摩聖蹟記念館】 南多摩郡多摩村大字光光寺にあり、南武電車多摩聖蹟驛口下車西へ約二軒、又は京王電車聖蹟驛ヶ丘下車南へ約一軒。異くも 明治天皇御臨の折には、御野立遊ばされた大松山山頂の聖地に昭和五年建設されたもので、御寶物及び幕末維新當時の志士の遺墨を陳列公開してゐる。拜觀料十錢。

市 濱 横

湘南電鐵・京濱電鐵・東横電鐵・神中鐵道接続驛  
東京・横濱間 省線電車二八分(二八軒八、四〇錢)  
澁谷・〇 東横電車四分(二四軒三、三九錢)

横濱は東京灣頭に位し、神戸と共に我邦に於ける二大貿易市場で、世界有數の大港市である。此地、安政の頃は戸數僅か百戸許りの一小漁村であつたが、安政六年二月の神奈川條約に依り開港場に指定されてから急激な發展をなし、明治二十二年市制を施すに至つたのである。大正の大震災には全市を灰燼に歸せしめたが僅か六年にして復興・復舊事業を完成し更に之と相前後して隣接町村を合併した

ので一躍本邦六大都市の一に迄進展するに至つた。市は行政上之を七區(鶴見・神奈川・中・保土谷・磯子・港北・戸塚の七區)に分ち、その中最も賑ふのは中區で、伊勢佐木町通り及馬車道附近は市内第一の盛り場をなして居り、また山下町から海岸通にかけては、外國情緒が多分に漲つてゐる所謂濱特有の匂がたゞよつてゐる。

【主なる官公廳其他】 市役所(中區港町)、警察廳(中區日本大通)、横濱税關(中區海岸通)、横濱高等商業學校(中區清水ヶ丘)、横濱高等工業學校(中區大岡町)、市立横濱專門學校(中區南太田町)、横濱生糸検査所(中區北神通五丁目)、輸出檢驗物検査所(中區山下町)、商工會議所(中區日本大通)、開港記念會館(中區本町)、支那總領事館(中區山下町)、ドイツ領事館(同)、佛國總領事館(同)、英國總領事館(中區日本大通)、イタリヤ領事館(中區山下町)、米國領事館(中區山下町)(其他各國領事館あるも省略す)、横濱正金銀行(中區南神通)、紐育ナショナルシチー銀行(中區山下町)、チャータード銀行(中區日本大通)、香港上海銀行(中區山下町)、横濱貿易新聞社(中區本町)、(百貨店)野澤屋(中區伊勢佐木町、同店内に當協會案内所がある)、松屋支店(伊勢佐木町)、壽(同上)。

【旅 館】 ①いとや(中區桐生町四ノ六五、電長者町一四二七・三一七二番、五圓)、②大野屋支店(中區太田町二ノ八〇、電本局五七五八番、三圓半)、③松坂屋(中區海岸通五ノ二七、電本局二九一・三六九三番、三圓)、葛屋(中區住吉町四ノ四四、電長者町五〇七一)、大勢屋(中區本町六ノ五〇、電本局九五三)、角屋(中區海岸通、電本局三六〇)、(ホテル)ホテルニューグランド(中區山下町一〇、電本局四六三六、室代五圓以上)、バンドホテル(中區新山下町一、電本局四八三二、室代三圓以上)、プラーホテル(中區山下町二、電本局三六一六、一泊七圓以上)、センターホテル(中區山下町、電本局三二四六、室代三圓以上)。

【主なる名勝・史蹟】 (五十番順)  
巡遊には觀光バスの如きものが無いから普通のバス又は電車を利用するのである。

伊勢佐木町通り 市電馬車道下車。中區にあつて大岡川に架けられた吉田橋から西方に走ること約一軒半の街路であ

る。此處は横濱隨一の盛り場で、オデオン座・横濱常設館、日活館・朝日座・世界館・電氣館・横濱歌舞伎座・花月等の映画館・劇場・寄席等の外、野澤屋・松屋・壽の三大百貨店や各種の商店・料理店等が櫛比してゐる。

▲大倉精神文化研究所 中區太尾町にありバス大倉山下下車。昭和七年大倉氏が精神文化の本質を研究し、正しい國家觀念の確立を計る目的のために創立せられたものである。

▲扇島海水浴場 鶴見港防波堤外にあり、鶴見臨港線進駐下車、渡船の便がある。海は遠淺の砂地で、京濱地方屈指の好海水浴場として夏期は非常に賑ひ各種の設備が整つて居る。

花月園

鶴見區鶴見町にあり、省線鶴見駅京濱電車花月園前下車又はバスの便もある。天然の起伏高低を利用して設計された遊園地で、園内には運動・演藝・娯樂設備等完備して家族連れの一日の清遊に適してゐる。入園料大人三〇錢、小人二〇錢。

▲金澤文庫

磯子區金澤谷津町にあり、湘南電車金澤文庫下車（年未年始のほか毎日公開、入場料十錢）。北條實時の創立にかゝるもので、北條氏滅亡後、文庫も汚損に委せられ、蔵書も大半散佚したのであるが今尙二萬卷の多きを蔵してゐる。現在の建物は縣が御大典記念事業の一として復興した和洋折衷の鐵筋コンクリート造りである。

▲掃部山公園

中區紅葉丘にあり、市電雲見橋或は紅葉坂下車。市内屈指の眺望美を有し、且つ園内には數百株の八重櫻及び井伊直朝の銅像がある。本園はもと井伊氏の私邸で、大正三年井伊直朝の銅像と共に市に寄附せられたのを、震災復興事業に依り地域を擴張し、且つ改造し施設を加へて面目を一新したものである。

▲外人墓地

中區山手町の山手公園の北にある。横濱開港以來の渡來外人死亡者を埋葬した墓地である。

▲十二天鼻

中區小港町にあり市電十二天下車。東京灣上に突出する岬角で風光が良く、本牧神社の社域になつてゐる。本牧神社は明治維新前には十二天と稱され、毎年八月御馬渡しの古式神事がある。附近南方の海岸諸處に海水浴場があり、また小港町は國際的に知られてゐる歌舞街である。

▲杉田梅林

磯子區杉田町にあり、市電・湘南電車共に杉田下車。古來梅の名所として知られた處で、嘗て 英照皇太后宮、昭憲皇太后宮の行啓の榮を賜うたところである。梅林は丘陵の傾斜面及びその麓の平地にあり、珠簾梅・照水梅等の名木がある。園に接する古刹東漸寺は臨濟關東十刹の一で鎌倉時代の古蹟を有してゐる。

▲鶴持寺

（曹洞宗大本山） 鶴見區鶴見町にあり省線電車鶴見下車二〇〇米。諸嶽山と號し、末寺一萬二千有餘ヶ寺を統ぶる本邦屈指の大寺院である。當山は元享元年開山常濟大師によつて能登國に建立され、越前の永平寺と並び稱された禪門の大道場で、明治年間現地に移されたものである。境内廣く、丘陵景勝の地を占め且つ静寂なる一勝區をなし、佛殿・大庫裡・待風館・紫雲臺などの大伽藍があり、年中參詣人の絶えることがない。

▲網島桃園及び鑛泉

港北區南網島町にあり東横電車網島温泉下車。網島附近は桃園多く、紅烟一抹の美と共に果實の産額も亦多く、此地方の特産となつてゐる。鑛泉はラヂウム含有泉で胃腸病・リウマチス等に効くと云はれ、電氣會社經營

▲弘明寺（古義真言宗） 中區弘明寺町にあり、市電バス弘明寺進駐下車。湘南電車弘明寺下車。市内屈指の名刹で、本堂は江戸時代の再建であるが本尊木造十一面觀音立像は藤原時代初期の名作で國寶になつてゐる。當山は養老五年、印度の善無憂三藏來朝し、此地に一字を草創したのが起原であると傳へられ、天平九年行基菩薩勅を奉じ、關東に巡錫せる際に伽藍を作り、大同四年弘法大師また當山に留錫一千座の大護摩供養を修すと云ふ。堂宇幽寂、雄偉の靈場にて參詣するものが頗る多い。

▲皇太神宮

（縣社） 中區宮崎町の伊勢山丘上に鎮座、市電紅葉坂下車。天照大神を祀る横濱全市の總鎮守である。例祭五月十五日。

▲三溪園

中區本牧三ノ谷にあり、市電三ノ谷下車。富豪原富太郎氏の庭園を公開せるもので、四季の變化に富んだ自然公園として著名である。本園は海濱に臨み且つ自然の丘岡木石池沼に人工を加へて境地に幾多の變化をなし、その間各種の古建築が移建配置されて居る。その主なる建造物は、臨春閣・月華殿（傳伏見城遺構、桃山時代）、草廬（同上、江戸時代）、天瑞院壽塔（桃山時代）、萬壽寺佛殿（室町時代）、三重塔（徳川明徳寺塔婆、室町時代）等、何れも國寶になつて居り、その外河内の敷心寺から移された楠公社（池の東畔にある一間社春日造）などもあつた。以上は、臨春閣は聚落跡の北殿階近、特に苑池に臨んで建てられ、秀吉が淀君と終日釣糸を垂れて樂んだ別殿であると云はれる。その遺蹟にして放蕩な意匠は千利休の指揮になつたものと云はれ、桃山時代邸宅建築の代表作として重視される處である。園内にはまた築井吉野櫻三百株餘あり、梅園も多い。

▲稱名寺

（真言律宗） 磯子區金澤町にあり、湘南電車金澤文庫下車。金澤山彌勒院と號し、當宗の別格本山たる名刹である。當寺は初め北條氏の一族、金澤實時當地に別業を營んで住したが、文永六年その子嗣時と協力して一寺を建立し、阿彌陀堂には過去成佛の彌陀如來を、講堂には現在成佛の釋迦如來を、金堂には未來出世の彌勒菩薩を安置して三世成道の靈場に擬し、律宗の僧海上人を請じて開山となしたと傳へられ、龜山天皇詔して勸修所と定め給ふ。また北條氏代々も崇敬の誠を致し、寺内に

の浴場の他、料理兼業の鑛泉旅館が十數軒ある。また附近には花菖蒲多く、その名所となつてゐる。

▲生麥ノ碑

鶴見區生麥にあり市電生麥下車。文久二年英人リチャードソンが薩摩藩島津久光の先驅を横ぎり、爲めに斬殺された地である。

▲根岸競馬場

中區磯子の根岸臺と稱する臺地にあり、春秋の競馬開催當日には馬から直通バスが出る。日本レース俱樂部に屬する規模宏大な競馬場で、賭博の設備東洋一の稱がある。

▲野毛山公園

中區老松町にあり市電野毛坂下車。公園一帯は山脊重疊して翠色に富み、且つ眺望にも富んでゐる。

▲八聖殿

中區本牧大里町の八王子鼻と稱せられる海岸に近い丘陵上にあり、市電三ノ谷下車南三〇〇米。昭和八年、安達謙造氏の發願に基き、専ら國民精神修養の道場として建設されたものである。二階講堂の正面中央に安置の神鏡を中心として向つて右側に聖德太子・空海・親鸞・日蓮、左側に釋迦・孔子・ソクラテス・キリストの八聖人の等身大の彫像を安置してゐる。尙此の丘陵は安政元年異船渡來の時、鳥取藩の見張所を置き大筒を構へて陣營した場所であり、また景勝の地としても江戸時代から文人・墨客の間知られた所である。

▲本覺寺

（曹洞宗） 神奈川區高島臺にあり、市電青木橋下車。安政三年米國假公使館に充てられ、同五年六月に幕府とハリスとの間に神奈川通商條約調印をなした所である。

▲山下公園

中區山下町にあり市電山下町下車。大震災跡の燒土を海中に投じて埋立地を得、工費七十三萬餘圓を以て公園となしたもので、横濱港の内港に接する臨海公園である。尙附近の山下町には外國商館が多く異國情緒に富んでゐる。中でも南京街は支那料理で知られてゐる。

▲横濱公園 中區花園橋隣にあり市電花園橋又は眞砂町下車。外人の要望と條約に基いて明治九年に開園せられた我邦最古の公園で、競技場・音楽堂等を有する現代式公園である。この公園から東北横濱大橋へ達する大街は日本大通で、附近に開港記念館・取引所等がある。

▲横濱市児童遊園 保土ヶ谷にあり市バス保土ヶ橋又は北永田下車。學制頒布五十年記念事業として設けたもので、トラック・プール・修養道場・忠魂碑等があり、市の誇りの一とされてゐる。

東京附近

多摩

東京府南多摩郡横山村大字下長房字龍ヶ谷

中央線浅川驛(新宿から電車五七分、六三錢)から近道一軒七、表道二軒七(バス十五錢)、又は京王電車御殿前驛(新宿から六五分、六八錢)から約一軒

御殿参拜時間 十一月一十月 午前八時から午後五時迄  
十一月一十月 午前八時から午後四時迄

大正天皇の永遠に神鎮まします御陵である。  
天皇は大正十五年十二月二十五日崩御あらせられ、昭和二年二月八日この地に歿葬し奉る。

御陵は武蔵國地々城の中央や、北寄りの丘陵に南面してまじく、御陵の三方を繞る臺地には樹木が茂り、神々しく拜され、附近は史蹟と名所にも富んでゐる。即ち御陵の西約二〇〇米の甘里御料林の邊は有名な古戰場として知られ(今から三六〇餘年前の水戸十二年、武田信玄が城山城を攻めて戸取の野を落す)、南方の山麓には八王子城主北條氏照の城址あり(浅川驛の西北約四軒)、遙か西南には紅葉の名所として又小學兒童修學旅行の最適地として知られて居る高尾山などがある。

高尾山薬王院

(新義真言宗) 東京府南多摩郡浅川町大字上綱田高尾山

浅川驛から山麓迄バス十分(二軒)十錢、夫から山上迄ケーブルカー一分二十分(一軒)上り三〇錢下り二五錢往復五〇錢、夫から徒歩約八〇〇米(殆んど平坦)

高尾山は一に高尾山とも書き、浅川町の西部に聳ゆる小さな山ではあるが、南に案内山・津久井山、北に小佛等の諸山を控え、全山鬱蒼たる緑樹に蔽はれて而も瀑あり、溪ありて新緑と紅葉の美に富み、更に山上には名利薬王院があつてその奥ノ院の西は十二ヶ園見晴臺の稱ある眺望を有してゐるのである。しかも此處は帝都を去ること僅か一時間半にして清澄な山の氣分にひたり、一日ゆつくり樂しむことが出来るので多摩御陵参拜・高尾山参詣等を兼ねての保健散策の好適地として世に知られてゐるのである。

薬王院は有喜寺とも號し俗に高尾山の名で知られてゐる。天平年間行基菩薩の開基に於て傳へられ、永和元年中興開山後源、不動明王を勧請し、飯綱権現と稱して本寺の守護神となした。山上緑樹の間に木堂・仁王門・五重塔等の伽藍見えて輪奐の美を極め、明治二十八年當派別格木山となり、川崎大師・成田不動と共に關東三山の一に數へられてゐる名刹である。

山上見晴臺から林道傳ひに甲州街道の大ダルミに出て奥瀬驛へ出るのも良いハイキングである。

◎小佛開闢(指定史蹟) 小佛峠は相武二州の境をなす峠で、浅川・奥瀬間上下八軒あり、往昔は甲州街道中、笹子に次ぐ難所と云はれた所で、此處に關所が設けられ江戸時代以後は嚴重に監視せられた處である。いま街道の左右山道處の關所(浅川驛の西一軒八、駒木野、舊甲州街道の北側)に残る一本の老松は「お關所の松」と呼ばれてゐる。

井ノ頭恩賜公園

北多摩郡武蔵野町三軒村 帝都電鐵井ノ頭公園前下車

舊帝室御料林の地を大正三年市の公園として下賜された

浅川附近略圖



處である。もと神田上水の泉源地であつた井ノ頭池を繞つて自然林が生ひ繁り、幽邃の境をなして居り、園内には動物園・水泳場・短艇場・徒涉地・兒童遊戯場等の特殊施設がある。

小金井の櫻

(指定の名勝) 北多摩郡小金井村にあり 中央線武蔵小金井・武蔵境驛から約一軒

玉川上水道の兩側、小川水衛所から境水衛所まで約六軒に亘つて多数に櫻樹が植ゑられてあり、東京近郊隨一の櫻の名所となつてゐる所である。これは元文の頃(紀元二二九〇年代)武蔵野新田の世話役川崎平右衛門が幕府の許可を得て植ゑたものであると云ふが、今尙原樹が多数に現存し、日ノ出櫻・入日ノ櫻・三吉野櫻等は樹形の壯大と花容の優れてゐるので知られてゐる名木である。

樹種は殆んど皆白山櫻でその中大和の吉野から移植したものが大半を占め、花の紅を帯びたものは常陸の櫻川から移したものであると云ふ。境附近では後年の補植樹が多く、隨つて幹の大なるものが少いが、園野櫻・新小金井櫻池には大樹が多い。花期は四月中旬頃である。

【多摩公園墓地】 京王電車市公園前驛の西約半軒、中央線武蔵小金井驛の南一軒半で共にバスの便がある。武蔵野の一端、多摩・小金井兩村に跨る幽邃の地三十萬坪を下して作られた公園式の市設墓地で、東郷元帥を初め高橋是清・齋藤實・内田康哉・床次竹次郎・新渡戸稲造・服部金太郎・巖谷小波等の名士の墓もある。

【東京競馬場】 府中町にあり、春秋の競馬開催當日には國分寺から分岐する支線直通電車の便がある。府中にあるので府中競場とも云はれる。東京競馬倶楽部の經營にかゝり、府中にあるので府中競場とも云はれる。

【多摩川原園・京王園】 京王電車多摩川終點の南一〇〇米。電鐵會社經營の遊園地で大浴場・各種運動機關備はり子供連れの散策に好適の所である。入園料池袋から電車往復券付六〇錢。

【秋川溪谷】 五日市驛(立川驛接続) 五日市驛から西方秋川を遡る約二十

軒の溪谷は新緑と秋葉に良いので、御嶽方面へかけてのハイキングコースとして喜ばれてゐる所である。秋川は古名を阿伎留川と稱し、その流域西北方には御前・大嶽・御嶽・馬頭嶺・高明・東南方に白井・刈寄・今熊等の千五百米以下の低山があり、飽まで清澄にて幽邃の氣に充ちてゐる。

◎武蔵五日市市(一時間二十分、一軒五)金比羅公園(三時間、八軒五日之出山(五〇分三軒)御嶽山(二時間、四軒、ケーブルカー及バスの便もある)御嶽山(電車)立川

【網代温泉】西多摩郡増戸村にあり、五日市鐵道武蔵増戸駅から南約八〇〇米。秋川の流れて臨んだ臺地にあり、湯は辨天山の溪谷から引いて加熱したものでアルカリ泉に屬し、胃腸病・婦人病・皮膚病などに効くと云ふ。旅館 網代館、一泊三〜四圓位。

【吉野梅林】西多摩郡吉野村下村にあり青梅鐵道日向和田又は樂々園駅から多摩川を渡つて徒歩半軒。多摩川の清流に近き所、梅樹数千株あり、近時新月ヶ瀬なども稱して三月中旬頃の花期には杖を曳くものが多い。

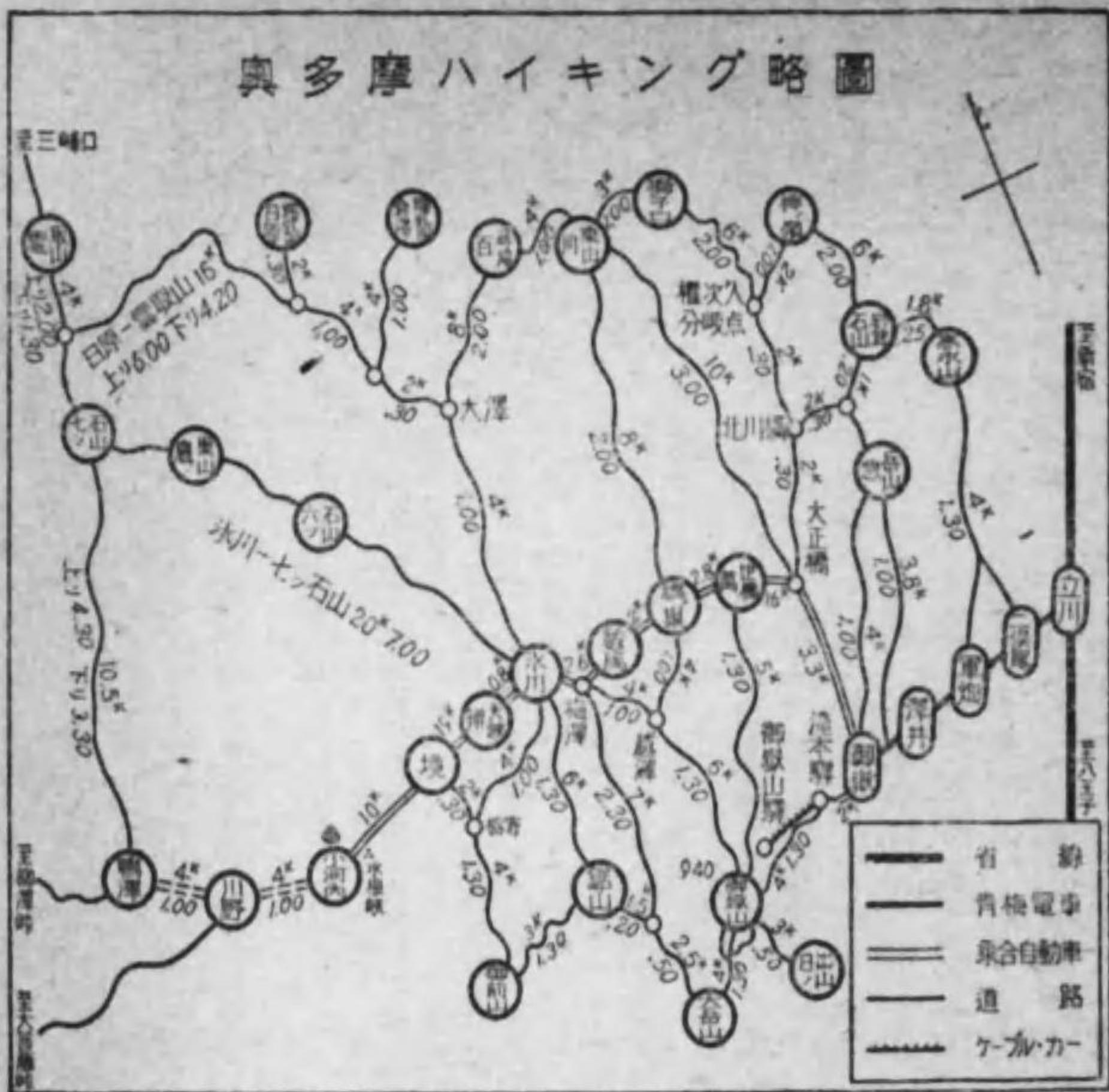
【樂々園】西多摩郡三田村二俣尾にあり、青梅電車樂々園駅前、多摩川の清流に臨んだ好風景地を下して遊園地となしたもので、園内には五百餘株の牡丹やテニスコート等があり、旅館(多摩山莊室科日本室二圓以上、洋間四圓以上)もある。

### 御嶽山

立川から青梅電車で五十分でその終點御嶽山に達し(春秋の日曜祭日には新宿から直通電車が出る)夫から山麓本道バス十五分(二軒餘)本道から山上迄ケーブルカーの便があり(八分、上り三五分、下り三〇分、往復六〇分)山上駅から御嶽神社迄徒歩七〇〇米。

武州御嶽とも稱し、東京府西多摩郡三田村の西南隅に聳ち、東京附近には珍しい山岳美に富んだ山である。鬱蒼たる老杉の間に櫻・ツ、チ、楓など點綴し、北麓には清流多摩川が東流して春・夏・秋それ々に趣をよくしてゐる。山上附近には平坦面があつてそこに御嶽神社及び約五十戸の御嶽部落がある。

### 奥多摩ハイキング略圖



御嶽神社は掃眞知命を祀る府社で、もと御嶽大権現と云ひ、安閑天皇御宇の創立と傳へられる。境内廣く、本殿は神明造りで明治年間の再建、拜殿は丹塗で天保年間の建築である。例祭五月八日。

御嶽神社附近、人家の傍に天然記念物指定の神代樺の巨樹(目通り幹圍約八米半、樹高三〇米)がある。尚御嶽山上には旅館は無いが古來神社と密接な關係をもち、講中を宿泊せしむる御師の家が二十餘軒ある。

御嶽神社南西約二軒の男具那ノ峯は眺望廣く、此處から更に南西方約二軒に大嶽山峙ち、その間に容易にして興味ある縦走路通じ、郷社大嶽神社の背後約三〇〇米の山頂は眺望更に雄大である。

### 奥多摩

東京府西多摩郡西部、多摩川上流地附近一帯(その限界は一定せざるも、凡そ北方は埼玉縣秩父郡との境界上なる仙元峠及び天目山西方は山梨縣北都留郡との境上なる三頭山南方は東京府南多摩郡との境界に圍まれる地域に如くである)を云ふ。

この間、清流多摩の本流東に走り、深溪・森林・山岳の美景諸所に展開し、山水美豊かなる幽邃境をなして帝都人士の絶好の行樂探勝境をなして居るのである。即ち、吉野梅林・大日本寒山寺・射山溪・御嶽山・鳩ノ巢・數馬ノ石門・日原石灰洞・氷川等々探るべき勝地に富み、また多摩川左岸には高水山・川乗山・天目山・鳩ノ巢山等の連山東西に連り、南方右岸には御嶽山・大嶽山・鋸山・御前山・三頭山等同じく東西に連亘して山岳美を見せてゐる。これ等の連峯は時により奥多摩アルプスと總稱せられることもあり、その南麓には多摩川の支流秋川東に流れ、そこにも溪谷美を作つてゐるのである。

▲射山溪 青梅電車終點御嶽山附近の多摩川溪谷の一勝地で、附近にはキャンプ・水泳・スケート等の好適地がある。

【旅館】(東京府西多摩郡三田村、御嶽山附近)◎河原園(電停井一八番、三圓半)、◎勝仙閣(電同二番、三圓)、◎和歌松別館(電同七番、三圓)。

▲水香園 前記射山溪上流の勝地で、翠巒を背景とした自然の公園風景をなしてゐる所である。旅館水香園松の湯(西多摩郡吉里村川井)がある。御嶽山から三軒六、バス十分、十五分(氷川ゆき)。

▲鳩の巢 同じく御嶽山から甲州街道を西(氷川方面)へ約七軒七(バス十分、三十分)行つた多摩川上流の絶勝地である。

▲氷川の幽邃境 氷川村は西多摩郡の西北部にある大村で、多摩川は峡谷を造つて村の南部を東流し、更に支流日原川が東西兩山地の結合を南流し來つて此處で合流し、附近一帯は清らかなる奥多摩の峡谷美をなして居るのである。辨天橋附近は殊に名高く、ハイキング・キャンプの好適地として知られてゐる。御嶽山から辨天橋迄(三軒)バス三十分、五十分、五分毎。

▲日原鍾乳洞(氷川村) 前記辨天橋の八〇〇米手前の氷川部落から北へ凡そ十二軒(徒歩三時間)の日原川上流にある我邦屈指の大石灰洞である。日原山・鷹巣山等は山體石灰質から成り、附近山中には鍾乳洞の見事なものも多く、殊に日原・倉澤(日原への途中から右へ四軒入つた所にある)の兩洞はその代表的なものであると云ふ。當て鍾乳石・石筍等様式的な形態を有して居たものは多く持ち去られたが、洞窟内凡そ四五〇米迄進入することが出来、洞内に三途川と稱する洪水がある。

▲小河内鍾乳洞(鶴之温泉) 西多摩郡小河内村原、前記氷川村辨天橋から一〇軒四、バス五十分、六〇分、凡一時間(一日十一、二回定期運行)。多摩川の上源丹波川が、迂餘蛇行して謂ゆる奥多摩の溪谷をなし、辨天洞の奇勝をなす附近に湧出してゐるアルカリ性硫黄泉で(浴用加熱してゐる)打撲・創傷・皮膚病等に特效があると云ふので湯治に來る者や、奥多摩探勝者の來浴する者少く無い。

【旅館】 鶴屋別館、鶴屋本店、其他、一泊三圓位。

### 氷川神社

(官幣大社) 埼玉縣北足立郡大宮町高島に鎮座

東北本線大宮駅から東北一軒餘

須佐之男命・稻田姫命・大己貴命を祀る。

當社は 孝昭天皇の御宇三年(紀元二五三年)出雲大社の祭

神を勧請せしに創まると傳へる古社で、聖武天皇の御宇武蔵國一ノ宮と御治定あらせられ、延喜の制名神大社に列し、歴代皇室及武門の崇敬篤く、明治元年には、明治天皇勅書を下し給ひて當社を武蔵國の鎮守とし、行幸され御親祭を行はせ給ふた。今の社殿は流造で明治十四年の再建である。例祭八月一日、尙毎年十二月十日に執行される大湯祭（俗に福連へ西ノ市と稱し、東國一の盛儀である）は著名な特殊神事である。

【大宮町】大宮の名は富國一ノ宮の所在地である處から生じたこと云はれ、その鳥居前町として發達し、のち交通の要衝となり、中仙道六十七驛の一宿驛として繁榮を來した所である。近郊に國立種馬場・縣立種畜場等がある。【旅館】八重垣、高松橋、石川橋、遊園地ホテル。▲大宮公園 氷川神社の神域に接し、氷川公園とも云ふ。園内に綜合運動場があり、また松樹も多く、衆樂園には三百餘株の牡丹を栽培して居る。尙東方を流れる見沼用水は登の名所として知られて居る。

### 天覽山

埼玉縣人間部飯能町字宮本町にあり、八高線東飯能駅から一軒四、武蔵野電車天覽山駅から二〇〇米餘。

飯能の町端れにあり、眼下に名栗川の清流を俯瞰して山上の展望が良いので知られて居る所で、もと羅漢山と稱したが、明治天皇特別演習を觀覽し給ふてから天覽山と改稱されたのである。頂上にその記念碑、中腹の臺地に駒繋の松・御手植の金松がある。山は松・杉・檜などの樹木鬱蒼として茂り、登路には鏡岩・獅子岩等の奇岩あり、山頂近くには十六羅漢の石像が安置され、山全體は天然の公園となつて居る。山麓に茶店・料理旅館（東雲亭）等がある。▲徳仁寺 天覽山の麓にあり、明治戊辰の戦役に振武軍の據つたところ、境内に久留里城主黒田氏某代の墓がある。

### 正丸峠

東京と秩父とを一直線に結び付けた新自動車道の途上にある峠で、埼玉縣人間部吾野村と、秩父郡所ケ久保村との境上に位し、南側は伊豆ヶ嶽に連つて居る。古名を秩父峠と稱し最高點七〇〇米。峠附近は緩やかな傾斜を持ち、且つ附近山嶽の展望が雄大なので春秋の候には都人士のハイカーが少なくなく厚生道場・パンカロー等の設備も整つて居る。

池袋—吾野 武蔵野電車で一時間四分（五七九）、一圓九錢、税二錢。  
（土・日・月及祝祭日、毎月一日には往復一圓八〇錢に割引される。）  
吾野—正丸峠 上バス三〇分（一四軒二）、二八軒六（一七七）  
ク—秩父町 上バス一時間二〇分（二八軒六）七五錢  
●厚生道場（一泊五十錢、寢具附、食事一食二五錢）  
●パンカロー（二、三人用一棟六〇錢、五、六人用一棟一圓半）

【正丸峠・伊豆ヶ嶽ハイキング】  
池袋—吾野 一時間四分 正丸峠 四〇分 伊豆ヶ嶽頂上 二〇分  
五〇分 古御嶽間鞍部 一〇分 古御嶽 九分 一時間 四〇分 東郷公園 二〇分  
七〇分 吾野 一時間 池袋

【武甲山ハイキング】  
吾野（正丸峠越え）一時間 三〇分 字根 二時間半 武甲山 一時間 生川 一時間 根古谷 一時間（正丸峠越え）吾野—池袋 六〇分

武甲山は正丸峠の西南に群峰を羅し、奥武蔵の王者の如く聳える海拔一、三三六米の山で、全山峻々たる石灰岩から成り、山頂には武甲神社があり、眺望また雄大である。

### 名栗鑛泉

埼玉縣人間部名栗村にあり、武蔵野電車飯能駅又は八高線妻波峠を中心とした山間にあり、名栗川の清流に沿つて山と溪谷に抱かれて新緑に紅葉に四季の景趣に富んだ所である。鑛泉は取純泉でラヂウムも含有して居ると云はれ、神樂湯・リウマチス・打身・創傷・婦人病・胃腸病等に効があると云ふ。旅館 大松閣（電名栗八番、一泊三圓—五圓）

### 子ノ權現（天龍寺）（天龍宗）

埼玉縣人間部吾野村にあり、武蔵野電車吾野駅から山麓迄四軒、バスあり

海拔八〇〇米の子ノ山頂上にあり、寺前の展望雄大である。本尊に子聖大權現を安置する處から俗に「子ノ權現」として聞え、腰の病の守り神として常に參詣者が多い。新日の四月十日に寺で出す高盛飯は有名である。

高山不動（吾野駅から約五軒、途中途バスあり）、外秩父連嶽中の最高峯たる高山の半腹にあり、附近は紅葉狩、キャンプの適地とされて居る。

### 高麗神社

埼玉縣人間部高麗村字宮の丘陵の麓杉林の中に鎮座、八高線高麗川駅の西一軒、武蔵野電車高麗駅から二軒餘

祭神は猿田彦命・武内宿禰及び高麗王若光なりと云ふ。本殿は一間社流造、室町末期の建築で、内陣に高麗王若光の木像を祀つてある。

### 聖天院

高麗神社の南三〇〇米の同村字寺山にある。天平勝寶三年高麗王若光の侍僧、金勝樂なる者が主君の冥福を祈らんが爲に伽藍を創せしに半途にて他界したので弟子の聖雲（若光王第三子）が師の遺志を繼いで之を落成し、父の置した聖天を安置したのであると傳へる。境内に若光王の墓がある。

### 越生梅林（新月ヶ瀬）

八高線越生駅の西三軒半の（人間部）梅園村にあり、觀梅期にはバスの便がある。

梅園村は秩父山塊東部の山地で、村の中部を北流する越生川に沿つて小群地があり、北部の津久根・堂山一帶の地は梅樹多く、古來「越生梅林」として知られて居たが近年は「新月ヶ瀬梅林」とも稱せられて居る。勿論本家の月ヶ瀬には及びべくもないが、東京附近の勝地として一遊に値する所である。名物に梅の奈良漬・梅酒がある。

### 黒山鑛泉

埼玉縣人間部梅園村黒山八高線越生駅から約九軒バスあり、東上線川越駅から直通バスの便がある。

弱アルカリ泉の沸し湯で慢性リウマチス・胃腸病・腫物・脚氣・中風等に効があると云ふ。此處は越生川に沿ひ、秩父連山を近くに繞らす静寂な環境で、附近には黒山三湯と稱する雄滝・雌滝・天狗滝があり小風景をなして居る。尙太田道灌の中興開山と傳ふる禪刹龍潭寺がある。

### 金鑛神社（官幣中社）

埼玉縣児玉郡青柳村二ノ宮の御室岳の麓に鎮座、八高線児玉駅から西六軒、バス二十分

天照大神・素戔鳴尊を主神とし日本武尊を配祀す。

當社は、景行天皇の四十一年、皇子日本武尊御東征の歸途、伊勢神宮の齋宮にまします御時様姫命より賜つた火鑽金を御靈代として天照大神及び素戔鳴尊を奉養せしに創ると傳へられ、欽明天皇の御宇、日本武尊の御成勳を追慕あらせられて、尊を配祀し給ひ勅幣を賜つた。爾來歴代皇室の御成勳を追慕、延喜の制には名神大社に列し、また坂上田村麿東征の時（延喜二年）及び源義家奥羽征伐の時（永承六年）何れも當社に祈願すと云ふ。社殿には本殿なく、拜殿と幣殿があるのみであるが、明治年間同社の建築で地方自治の社殿となつて居る。本殿は常緑樹茂る御室ヶ岳三町歩を神奈備として崇拝して居る。尙境内參道の兩側に朱塗の二層塔あり（當社の別當一乘院に屬した多寶塔で天文三年、近郷の豪族阿保正金隆の建立にかゝる）室町時代の優作で國寶になつて居る。例祭四月十五日、外に十一月廿三日夜中にて執行行はれる火鑽神事は日本武尊野火の難を免れ給ひし史實に因む特殊神事で、一月三日の福連神事と共に參詣人多く大いに賑ふ。

八鹽鑛泉

群馬縣多野郡鬼石町  
八高見山から八軒、高崎線新町からバス四五  
同本庄からバス五五

アルカリ性強食鹽泉で、浴用加熱し胃腸病・氣管支カタル糖尿病・肥肝病等に効があると云ふ。「旅館」神水館、八鹽館。一泊二圓乃至四圓位。地は神奈川の清波に臨み、御室岳が見渡され、近くの神奈川上流に鬼石の溪流美や三波川の櫻がある。

三波石

群馬縣多野郡美原村にあり見玉野から西南約一六軒、又は高崎線本庄から西南二〇軒、バスの便がある。鬼石の上流に位する神流川の峡谷で、河中に奇石佳石横はり、清流之に激して勝景をなしてあるところである。

三波川の櫻

(指定名勝・天然記念物) 多野郡三波川村櫻山の頂上にあり、見玉野の西南十七軒(途中途バスの便があり、それから登路急坂約四軒)冬櫻及び染井吉野櫻が約一千株計あり、冬期に開花するので著名である。之は日露戦役記念のため明治四十一年に栽植せられたものであると云ふ。冬櫻は珍種なもので、此の山上に於ける如く密生し、殊に寒中に開花する光景は櫻の名勝として比類無きのみか、その中花部の變異を呈するものなどもあつて植物學上貴重せられてゐる。

武藏嵐山

埼玉縣比企郡菅谷村  
東武電車東上線菅谷駅からバス二〇鐘

隅川が太平山の麓を半周してゐる所で、附近に松・櫻・楓が茂り、その景観京都の嵐山に似てゐる處からこの名が興へられ、四季を通じて一日の清遊に適した所で、割烹旅館もある。

吉見百穴

(指定史蹟) 埼玉縣比企郡西吉見村  
東上線武州松山駅から東北二軒半

松山城址(城山公園となつてゐる)北方丘陵の西斜面に二百餘箇の横穴が相重なる如く密接して疊まれてゐる。之は上古の墳墓であると云はれ、人骨の外、玉鋼・直刀・刀子・鐵鏟・鐵斧などが発見されてゐる。穴の大きは何れも一米乃至三米四方あり。天井は多く穹窿型である。尚この内數個の洞穴中には天然記念物指定の光苔の生成してゐるものがある。

熊喜院

(古蹟眞言宗) 埼玉縣大里郡妻沼町  
熊谷駅から北三〇〇米あり

齊藤實盛の開創と傳へ、本堂の北三〇〇米の所に聖天堂は實盛の次男實長(法名阿彌居良應)の遺骨にあり、俗に妻沼聖天と稱し、舊正月元日には香油の修法が行はれ、參詣人が多い。

長瀨

(指定名勝) 埼玉縣秩父郡上村・白鳥村・國神村・皆野村  
秩父鐵道長瀨駅又は上長瀨駅下車

荒川上流の溪谷で、長瀨驛の東から上長瀨驛の東に至る約一軒の間を云ふ。河床には結晶片岩の岩床あり、(結晶片岩地方の峡谷としては關東に於ける代表的のもので各種の天然記念物がある)河水はその間を浸蝕して極めて緩かに流れ、對岸には、岩壁峙ち(秩父赤壁と稱せらる)小瀨そこに懸つて一勝區をなし、一日の清遊に好適の所である。また長瀨・上長瀨兩驛間には櫻樹も多く植栽せられ、櫻の名所としても知られて居り、更に荒川下りの舟遊を樂しむことも出来る。

▲實登山神社(群社) 長瀨驛の西半軒、野上村藤谷洞に鎮座。神日本武尊命を祀り、火産靈命・大山紙命を配祀してゐる。社傳に依ると、景行天皇の四十一年、皇子日本武尊東平定御氣旋の際、當山頂に神靈を立て、敵

正法寺・物見山

埼玉縣比企郡高坂村巖殿  
東上線高坂駅の西約四軒

正法寺は巖殿山實光院と云ひ、坂東三十三ヶ所第十番の札所である。寺の背後にある物見山は、名の如く眺望に富み、附近を九十九峯・四十八谷と稱し、山上にツ・ジが多く、近時梅樹も植まられて公園となつてゐるので、子供連れのピクニックに好い所である。

熊谷・秩父方面

熊谷市

高崎線熊谷駅所在、社線秩父鐵道接続  
上野から汽車一時間(六一軒一)、三等九三錢、税二錢

埼玉縣四市の一で縣の北部に位し、荒川その南部を東南に流れてゐる。昔は中仙道の宿驛として繁榮した所で、廣漠たる武藏野平野に屬して土地平坦、地味肥え水利の便に富み農耕に適し、米・藁の取引が盛んであるが殊に縣下の染色地として著名である。

名勝に荒川堤の櫻・星溪園・熊谷寺等があり、名産五家寶(菓子)は遠く海外へも輸出されてゐると云ふ。

▲熊谷堤の櫻(指定名勝) 熊谷驛の南方二二〇米、荒川の堤上約四軒に亘つて染井吉野櫻の老樹が延々と連つてゐる。満開を以て載はる處から櫻堤とも云ひ一目千木の稱がある。この堤は天正年間築造に依り在來花の名所であつたが、その後枯損に任せてあつたのを明治十六年鐵道開通の時新に植樹して今日の勝景となつたものであると云ふ。樹幹太く、且つ樹數の多き點に於て全國有數のものといはれ、陽春曳杖の季には觀櫻客遠近より集りて堤上一大樂園となつてゐる。

▲星溪園(池亭) 櫻堤に沿ひ、古刹石上寺の傍竹井氏の邸内にあり、幽邃閑雅の名園として開き、夏は納涼に、冬は觀雪に佳なりと云ふ。當園は奥くも明治十七年八月、皇后陛下(昭憲皇太后)御小休遊ばされ、また大正十一年十一月には秩父宮殿下御宿泊遊ばされた御由緒深き所である。

傍山東北段を遙拜し給うたのが本社の起原である。尊が初めて當山に御登に當る時、巨大來りて博學し奉つたが、其の方から猛火が延焼して來たので、巨大は必死に之を防ぎ、其火するや忽ちその姿を隠したと云ふ。茲に於て初めて大山祇神に屬する靈犬なることを知り、大山祇神と火防守護神たる火産靈神とを奉養し給うたと云ふ。よつて當山を火止(後に實登の字に改む)と稱すと云ふ。山麓に尊の身代仗を行はせ給うた「玉の泉」がある。約二軒登つた實登山頂に奥社があり、眺望がよい。

秩父神社

(國幣小社) 埼玉縣秩父郡秩父町大宮字母屋森  
秩父鐵道秩父駅下車北二〇〇米

八意思兼命・知知夫彥命を祀る。當社の起原は頗る遠く、二千有餘年前の上古秩父國開創の時、即ち 崇神天皇の御代に創建された名祠で、夙く延喜の官帳に列し、上下の崇敬極めて篤かつた。神域廣く、老杉の森のうちに華麗な権現造りの社殿を拜する。例祭十二月三日、當社の秩父神樂は有名なもので、大祭の外、春季祭(四月廿三日)・秋季祭(九月廿三日)などに催される。また特別神事として七月二十日の河瀨祭がある。

三峯神社

(群社) 埼玉縣秩父郡大里村三峯山頂に鎮座

秩父鐵道三峯口下車(熊谷から一時間四十分、税共一圓三七錢)・山麓大輪遊バス五十分(六軒半)・三十錢、一日十圓位。それから荒川に架る登龍橋を渡つて四五百米上つた所から山上迄ケーブルカーで八分(往復九十錢、卅四分毎)更に神社迄徒歩半軒餘。

伊弉諾神・伊弉冉神を祀る。例祭四月八日。



# 日本三辨天の一・江の島

島に辨天・旅館は恵日壽  
 鐵道省指定  
 ツーリスト・ビューロー  
 全國同盟旅館協會加盟店

江の島の  
**恵日壽屋**  
 電話片瀬四番  
 電話片瀬七番  
 旅館 割旅  
 旅館 割旅  
 簡易食堂 堂食  
 御土産物 物産土御



四季の鎌倉へ  
 一日行樂の鎌倉へ

弊館を御利用下さい  
 相州鎌倉比と其の別荘  
 自然莊 鎌倉園

## 史蹟鎌倉の御宿



近代的設備をもち  
 誠實、清潔、親切を  
 モットーとする  
 皆様の御宿  
 ツーリスト・ビューロー  
 鎌倉鶴ヶ岡八幡宮前  
**松岡旅館**  
 電話 五〇番

### 三峰神社附近略圖



社境は秩父連峯中の名山で勝景に富み、自然に地方民の信仰を集める靈區をなしてある。當社は、景行天皇の朝、日本武尊東征の際創祀し給ひ、のち、景行天皇東國御巡幸の御時、妙法・白石・雲取の三領高く連なるを鬮はし、三峯宮と稱し給ふと傳へられる。中世以降修験道の信仰も深く、近世に及んで農民・商人の登拜するものが多く、關東の名社となつた。明治維新の際、神佛混淆の風禁ぜられ、佛寺は廢された。

民間に於ては當社の神使狼を大口真神と稱し、神符を門戸に貼れば盜賊・火災を防止すると云ひ、信仰が甚だ篤い。

**中津峽** 埼玉縣秩父郡大津村にあり、秩父鐵道終點三峯口驛下車、三峯山麓の大輪を経て落合迄バス三十分、五十鐘、夫から徒歩で入る。荒川の上流水源地域に於ける支流中津川の溪谷で、秩父古生層から成り、周圍の山地は三十度以上の傾斜を以て五〇〇乃至七〇〇米を開折し崩入峽谷をなしてある。本流荒川の合流點たる落合から分れ、鴫平・鴫平・小雙里を経て十々六米に至れば稍緩色佳く、更に上流の瀧澤から中雙里(落合から十二村)・中津川間約十村の間は特に景緻良く、紅葉の候には訪ふ者が多い。

日本旅行協會編纂  
**ツーリスト案内叢書**  
 各冊共一部十五錢 送料三錢

第一冊 北海道  
 第二冊 青森県  
 第三冊 岩手県  
 第四冊 秋田県  
 第五冊 山形県  
 第六冊 宮城県  
 第七冊 福島県  
 第八冊 茨城県  
 第九冊 栃木県  
 第十冊 群馬県  
 第十一冊 埼玉県  
 第十二冊 千葉県  
 第十三冊 東京都  
 第十四冊 神奈川県  
 第十五冊 新潟県  
 第十六冊 富山県  
 第十七冊 石川県  
 第十八冊 福井県  
 第十九冊 山梨県  
 第二十冊 長野県  
 第二十一冊 岐阜県  
 第二十二冊 静岡県  
 第二十三冊 愛知県  
 第二十四冊 三重県  
 第二十五冊 滋賀県  
 第二十六冊 京都府  
 第二十七冊 大阪府  
 第二十八冊 兵庫県  
 第二十九冊 奈良県  
 第三十冊 和歌山県  
 第三十一冊 徳島県  
 第三十二冊 香川県  
 第三十三冊 高松県  
 第三十四冊 愛媛県  
 第三十五冊 高知県  
 第三十六冊 福岡県  
 第三十七冊 佐賀県  
 第三十八冊 熊本県  
 第三十九冊 大分県  
 第四十冊 宮崎県  
 第四十一冊 鹿児島県  
 第四十二冊 沖縄県

ツーリスト案内叢書 第二十編  
**東京地方** 定價拾五錢 送料三錢

昭和十五年十月二十日 印刷  
 昭和十五年十月三十日 發行

發行所 東京市麹町區丸の内一ノノ  
 社団法人(日本) 旅行協會  
 代表者 香月善次  
 東京市王子區神谷町一ノ四八二  
 印刷所 東京 印刷株式會社  
 印刷人 吉田了太



旅行の御相談は

ビュローへ

終